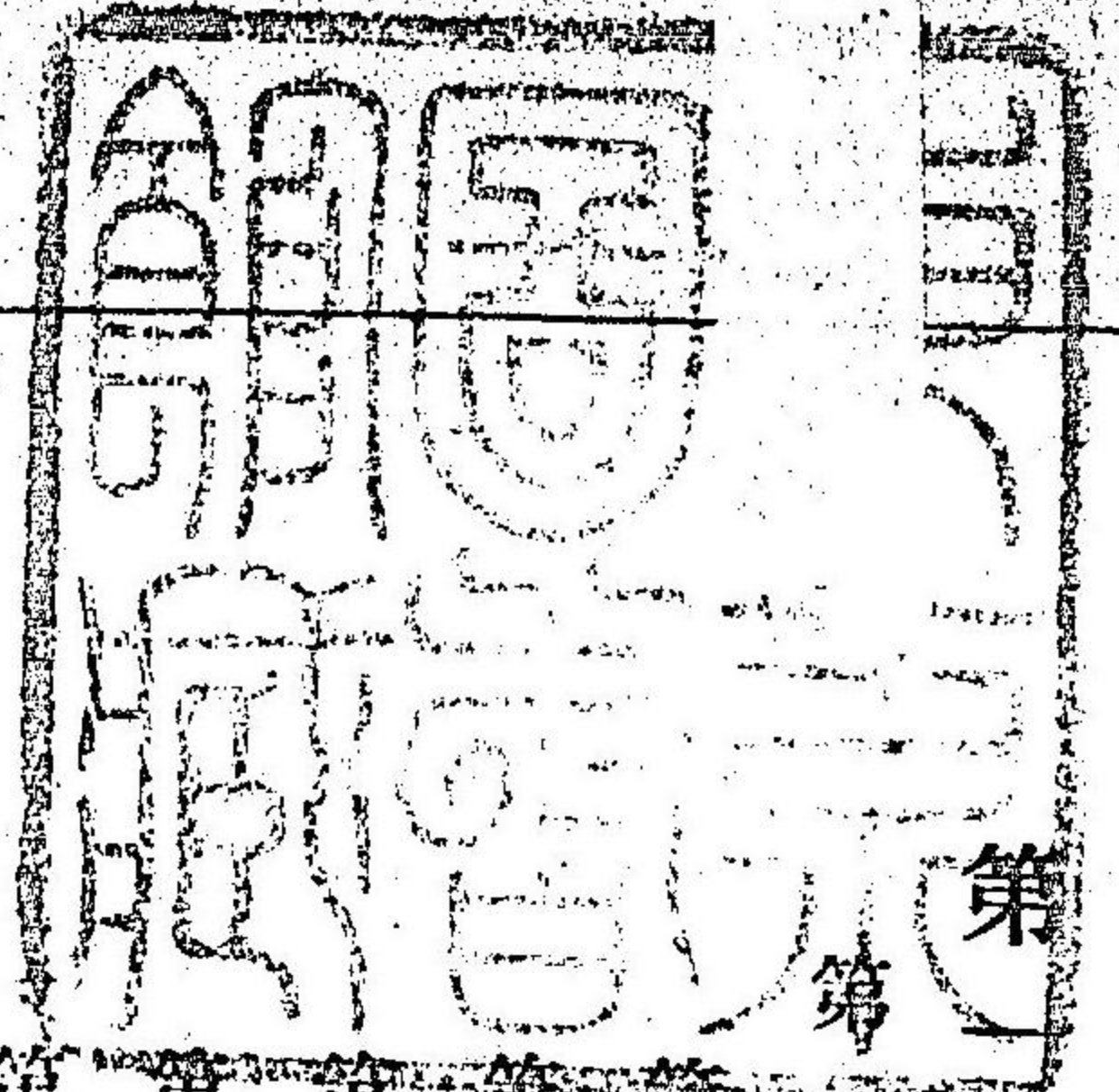


No 335/A



人產法自次

總論

- 第一章 財產思想ノ發達
- 第二章 人產ノ性質並ニ種類
- 第三章 人產ト實產ノ區別

第一編 占有產

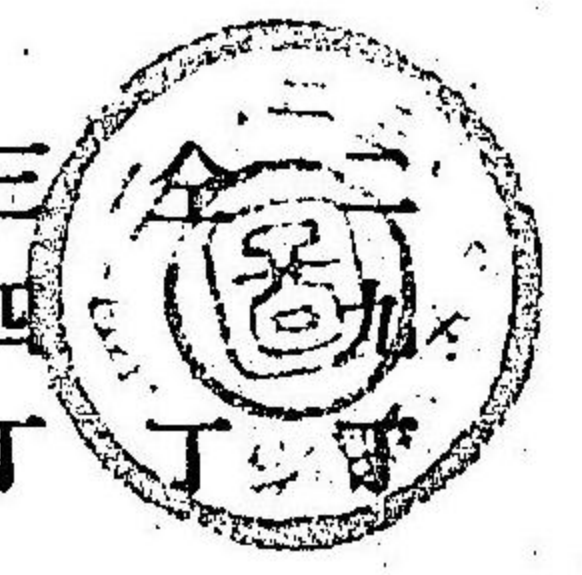
- 第一章 相續人ニ移轉スル物品
- 第一節 地券
- 第二節 世襲人產
- 第三節 固着物
- 第四節 植物
- 第五節 野動物

第二章 發見品取戻ノ訴訟、動產委託動產差押

第一節 發見品取戻ノ訴訟

人產法目次

- 三四丁
- 四二丁
- 四四丁
- 四五丁
- 四八丁
- 四九丁
- 五二丁
- 五四丁
- 五八丁
- 五九丁





14-427

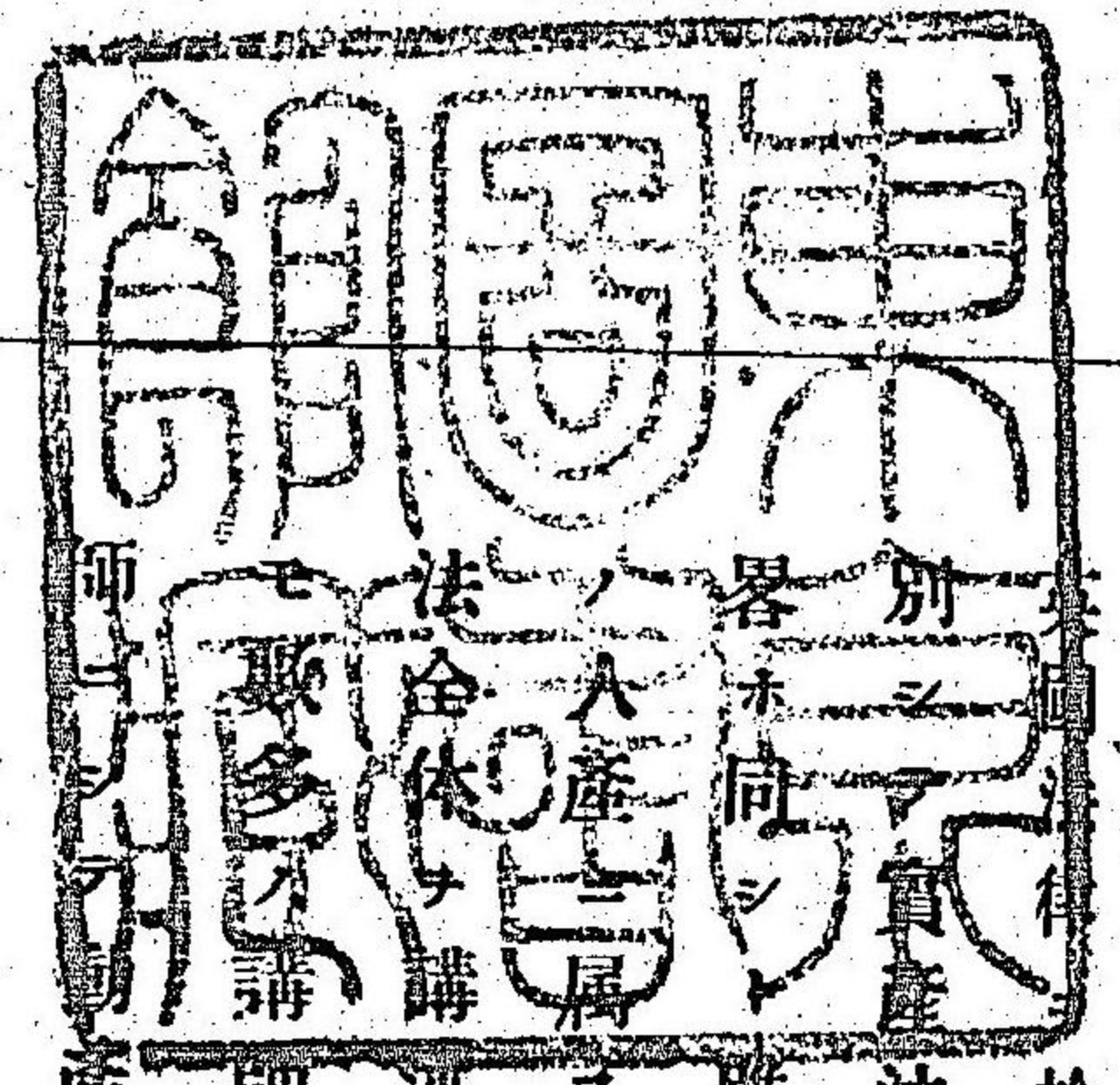
人產法目次終

第二節 動產委託	六二丁
第三節 物品差留	六五丁
第三章 占有人產ノ讓渡	七〇丁
第一節 贈與	七二丁
第二節 捺印證書	七五丁
第三節 賣買	全丁
第二編 訴訟產	七六丁
第一章 私犯ヨリ生スル訴訟產	全丁
第二章 契約ヨリ生スル訴訟產	八三丁
第三章 負債	八六丁
第四章 整理並示該ノ辨濟法	九七丁

人產法 (The Law of Personal Property)

法學士 馬場 愿 治 講義  
院 友 永 瀧 久 吉 筆記

第一回



於テハ總テノ財産ヲ區別シテ人產及實產ノ二トシ從テ財産法ヲ區別シテ人產法ノ二トナセリ此區別ハ羅馬法ノ所謂不動產動產ノ區別ト畧ホ同シ雖モ二者必ス同一ナリト云フヲ得ス羅馬法ノ不動產ニシテ英國法ノ人產ニ屬スルアリ人產ニシテ動產ヲラサルモノアリ故ニ一講師ニシテ英國法合體ヲ講述スルニ於テハ其名目ヲ何レニ採ルモ偏倚漏遺ノ恐レナシサレトモ取多ク講師各科目ヲ擔當スル本院ニ於テハ一講師ニシテ實產法ヲ講シ一講師ニシテ人產法ヲ説カンカ遂ニ偏倚漏遺ノ弊ニ陥ラン是余カ講題ヲ人產法ニ採リ動產法ニ採ラサル所以ナリ

總論

第一章 財產思想ノ發達

人產法

總論  
財產思想ノ發達



人類相集マリテ社會ヲナストキニ於テ財產ノ思想ヲ有セサル社會ノ存在セルコトヲ想像スルハ單ニ空想ノ一夢ニ過キサルナリ蓋シ人類ハ相集マリテ社會ヲナシ各々財產ヲ獲得シテ之ヲ使用スルノ天性ヲ有ス然ルニ近時或學者ハ説クナシテ曰ク財產ヲ分割シテ所有シ且不均勻ニ其財產ヲ所有スルカ如キハ天然ノ道理ニ反スルモノニシテ爲メニ不幸ナル政治法律ヲ設ケサルヘカラサルニ至ルト嗚呼是何等ノ言ソヤ若シ斯ノ如キ空想ニ基キ社會ヲ組成スルヲ得シナラハ人類社會ハ最モ自然ノ勢ニ背馳シ尤モ憫然タル状態ヲ呈スルニ至ラン抑モ財產ノ思想ハ天帝ヨリ人類ヲシテ奮勵興起セシムル爲メニ惠與セラレタルモノナレハ最モ神聖ニ之ヲ保護セサルヘカラス實ニ財產ノ思想ハ社會ヲ進歩セシムルノ基礎ナリ農家ノ土地ヲ耕鋤シ商賈ノ商業ヲナシ工人ノ其職業ヲ勉勵スル其他人類ニ愛國心アリ慈愛心アルハ共ニ皆ナ此財產ナル思想ニ基因セスンハアラサルナリ然レトモ社會ノ幼稚ニシテ未タ進化セサル時ニ於テハ財產ノ思想ハ究メテ簡單ナルモノナリシカ社會ノ醇々進歩スルニ至リテ漸ク發達シ遂ニ本日ノ如ク充分ニ成熟スルニ至レリ凡テ事物ハ簡單ヨリ復雜ニ有形ヨリ無形ニ進ムハ事物進化

ノ原則ナリ財產ノ發達亦此原則ニ由ルモノニシテ初メ財產權ノ思想ハ有形ニシテ極メテ簡單ノモノナリシナリ語ヲ易テ之ヲ云ヘハ古代財產權ノ思想ハ財產ノ占有ト終始消長ヲ共ニセシモノナリ何ヲ以テ之ヲ謂フカ古代ニ於ケル財產獲得方法ヲ一見スルトキハ忽チ之ヲ了悟スルヲ得ヘシ蓋古代財產ノ獲得法ハ其占有ヲ得ルノ一途ニ在リシ而已ナリ故ニ占有ヲ引渡ス事ハ財產權ノ移轉ヲ完スルニ必要ナル條件ナリトセルハ各國古代法律ノ共ニ確認セシ者ナリ蓋占有ナキ財產ノ如キハ一ノ抽象ナル思想ニシテ野蠻人ノ未タ考ヒ及ハサリシ所タリ試ニ歐州古代ノ法律ヲ繙ケハ凡物品ヲ善意ニ所持スル時ハ假令ヒ其物品ハ素ト詐欺脅迫其他不正ノ方法ニヨリ原所有者ヨリ得ラレタルモノナルモ之ヲ取戻サ、ル事ナシ例之此書籍ヲ甲者ヨリ竊取シテ乙者ニ賣却シタリ乙者ハ善意ヲ以テ之ヲ買受ケタリトセハ甲者ハ乙者ニ對シテ之カ返還ヲ請求スルノ權ナシ又羅馬ノ古法ニヨルモ盜賊財產ヲ竊取シテ他ニ賣却セルトキハ買主ハ完全ノ所有權ヲ得テ之ヲ失フコトナシ被害者ハ唯盜賊ニ對シテ要償ノ權ヲ有スルニ過キス夫贓物ハ決シテ買主ノ所有ニ移轉セストノ法律ハ羅馬法ノ充分ニ發達進歩セル後ニ起生シタ



ル思想ナリ又有名ナル十二銅標ニヨルモ一ケ年間動産ヲ占有シタルモノハ時効ニヨリ完全ナル所有權ヲ得ルモノト定メタリ之等ノ法律ニヨレハ占有ナキ財產權ハ極メテ微弱ナルコトヲ證明スルニ足ルヘシ又ハシシアス氏ノ云フ所ニ依レハ十八世紀ノ半ハ頃マテハ他ニ貸與又ハ附托セルモノ第三者ノ手ニ渡レルトキハ元ノ所有者之ヲ取戻スコトヲ得ストノコトハ日耳曼聯邦數洲ノ法律ナルコトヲ明言セリ是ニ由テ之ヲ觀レハ前世紀ノ中頃ハ己ニ財產ノ思想大ニ發達セシモ未タ多少占有ノ思想ニ制限セラレタルモノナリ然レトモ如斯思想ハ社會ノ進歩スルニ從ヒ漸々發達シ遂ニ今日ノ如ク各所有者ハ自己ノ承諾アルニアラサレハ自己ノ財產權ヲ喪失スルモノニアラス假令善意ノ買主ニテモ之ヲ得ルコトヲ得ストシ唯々之ニ一ノ例外ヲ設クルニ至レリ即英國ニ於テハ「マアケット、チハート、ケイ、ケト、オヴ」即チ公市賣買ニ於テハ完全ノ所有權ヲ得ルモノトシ又本邦ニ於テハ贓物ニテモ公商公買ノ手ヨリ得タルトキハ代價ノ辨償ヲ受クルニアラサレハ之ヲ返還スルノ義務ナシト規定セリ之ヲ要スルニ財產權ナル思想ハ占有ニ起因シ全ク有形的ノ思想ノミナリシカ今日ニ至リテハ此有形的ノ思想ハ變シテ無形的ノ

六

思想ト化シ占有ヲ失スルモ財產權ヲ失スルモノニアラストセリ是レ其事物進化ノ原則上實ニ然ラサルヲ得サルモノナリ

古代ニ於ケル財產權ハ以上述フルカ如ク占有ナル思想ニ基因スルカ故ニ占有者死去スレハ其物件ハ無主物トナリ更ニ其占有ヲ得タルモノ、所有ニ歸シタリ英國有名ノ法曹ブラクストン氏ハ財產ヲ子孫ニ相續セシムルコトハ特法ニシテ決シテ自然即チ性法ニヨレル者ニアラス性法ニヨレハ占有者死去セハ生前ノ物件ハ共同物トナリ次ニ之ヲ占有シタルモノ所有權ヲ得ルモノナリト然レトモ氏ハ性法上之ヲ許サ、ルモ社會ノ秩序平和ヲ維持スルニハ占有者ヲシテ遺囑ニヨリ財產ヲ遺傳セシムルコトヲ必要トスト自認セリ余ノ考ヒテ以テスレハ財產ヲ子孫ニ遺傳スルヲ得ルハ自然法ノ命スル所ニシテ國法ノ特定ニ係ルモノニアラストス何トナレハ大ニ勞力ヲ費シ財產ヲ得タルモノ、子孫ハ其遺産ヲ得ルニ付テ道路ヲ通行スル人ヨリモ善キ名義ヲ有スルモノトスルハ人類ノ感情並ニ理會心ニ適合スルモノニシテ且各時代各國民ニ就テ之ヲ案スルモ此權利ヲ確認セサルモノナケレハナリ然レトモ血統ノ子孫間ニ分配スヘキ方法或ハ血統ノ等級ニ制



限ヲ設クルハ其國ノ制法ニ基クモノナリ

### 第二章 人産ノ性質並ニ種類

英國人産ノ性質ヲ論スルニハ勢ヒ歴史上ヨリ之ヲ述ヘサル可ラス英國ノ財産法ハ大別シテ之ヲ二トス曰ク實産法曰ク人産法是レナリ而シテ土地ノ保有並ニ耕作等ニ關スル封建制度ハ實産ニ關スル規則ノ基礎ニシテ物品ノ處分ニ關スル規則ハ實ニ人産法ノ基礎タリ

古代ニ溯レハ人産ハ實産ニ比シテ其數極メテ少ク且ツ世ニ貴重セラレス從テ法律ノ注意ヲ受ケルコト少ク降テ中世ニ及フモ各國ノ法律ハ尽ク封建制度ノ基礎タル土地ノ規則ヲ以テ充滿シ人産ニ至テハヘンリ第六世ノ時代マテハ殆ト法律ノ注意ヲ受ケサルモノト云フモ詛言コアラ然レトモ近世商業工藝大ニ發達シテ封建政治衰頽ヲ醸シ阻勉經濟ノ思想大ニ増進シ人々人産ヲ愛重スルニ及ヒテハ人産ノ勢力勃然トシテ増加シ遂ニ今日ノ如ク吾人身代ノ大部ハ實産ヨリモ寧ロ人産ヲ以テ組成セラルト云フモ其實ヲ得ルニ至レリ故ニ古代ニ於テハ人産輕セラレ實産重セラレタルモ今日ハ之ニ反スルノ勢ヲ呈シ却テ國ノ富強ヲ増進

ネルモノ人産ニアリト云ハシムルニ至レリ

財産ヲ區別シテ人産實産トナスハ人皆之ヲ知り且ツ條例ニ於テモ亦之ヲ認メタルモ其區別ノ濫觸ハ何ノ代ニアルヤヲ見ルニ比較上輓近ノコトナリシ古代ニ於テハ實産人産ノ區別ナク唯タ漠然ト財産ヲ二級ニ區別シテ其一級ニ於テハ土地保有産並ニ遺產ヲ配置シ他ノ一級ニ於テハ物品ヲ置キタリシサレトモ時世ノ進歩スルニ從ヒ古代ニ曾テ知ラレサル新財産生セリ是レ即チ土地ニ關連スル財産權即土地ニ關スル利益ニシテ其尤モ重ナルモノハ土地年期産之レナリ斯ノ如キ新財産ハ第一級ニ配列スヘキカ將タ第二級ニ屬スヘキカ何レノ階級ニカ屬セシメサルハカラス而シテ當時ノ法律ハ之ヲ物品ナル第二級中ニ配列セシメタリ然リト雖モ是等ノ新財産ハ實産ノ臭味ヲ帶フルヲ以テ付スルニ實物品ナル名稱ヲ以テシ其他ノモノヲ人物品ト稱セリ

### 第二回

前回ニ於テ述ヘタル如ク古昔ノ物品トハ有形物ニシテ動カシ得ヘキモノヲ云ヒシカ漸々社會ノ進歩スルニ從ヒ新奇ノ財産ヲ生スルニ至レリ即年期借地權ノ如



キ者ヲ生シテ第二級ノ財産ヲナセリ此年期借地權ハ土地ノ臭氣ヲ帶フルヲ以テ此新財産ト普通物品トヲ區別センカ爲メ新財産ニハ實物品ノ名稱ヲ付シ從來ノ普通物品ニハ人物品ノ名稱ヲ付シタリサー、エトワートコーク氏ハ何故ニ普通物品ニ人物品ナル名稱ヲ付シタルヤニ付キ其理由トシテ二個ノ説ヲ述ヘ之ヲ學者ノ撰擇ニ放任シタリ第一説ハ人物品ト稱スヘキモノハ多クハ人ノ身体ニ附着スルヲ以テ斯クハ人物品ト名稱ヲ付シタリト第二説ハ人物品ハ對人訴訟ニヨリ取戻スコトヲ得ルヲ以テ此ノ如キ名稱起レリト然ルニ彼ノ有名ナルブラクストン氏ハ第一ノ理由ヲ以テ正當ナルモノト思考セリ然レトモ自分ノ考ヘニヨレハ第一理由ヨリモ却テ第二ノ理由カ真正ノ理由ニ近キカト思惟セラル何トナレハ人物品ナル名稱ノ起リシハ實物品ノ發生シタル後ノ時代ニシテ此等ノ時代ニハ所有者ノ身体ニ附着スル物品ヨリモ尙ホ多數ノ物品カ發生シ居レリ然ルニ其物品中ノ或ル者ガ人身ニ附着セリトテ全物品ニ人物品トノ名稱ヲ付シタリトハ實ニ受ケ取り難キ理由ナレハナリ尤モ古昔人身ニ附着スル物品ノ外他ニ財産ナキ時代ニ於テハ行ハルヘケレトモ後世數多ノ動産ヲ生シ物品トハ強チ人ノ携帶スル

動産ニ限ラサル時代ニ至リテハ最早正當ノ理由タルノ價值ヲ失スルモノナリ然レトモ總テノ物品ハ他ヨリ之ヲ奪掠セラルトキハ如何ナル物品タルヲ問ハス總テ對人訴訟ニヨリ取戻スコトヲ得レハ此點ヨリシテ此等ノ物品ニ人物品ノ名稱ヲ付シタリト云フハ至當ノ理由ナルカ如シ此ノ如ク救濟法ヨリシテ名稱ヲ付スルハ強チ人物品ノミニ限ラス種々ノ場合ニ於テ其事蹟ヲ發見スルコトアリ試ニ古昔ノ漢書ヲ繙クニ病名ハ重ニ之ヲ治療スル方法ヨリ名ケラレタリ即治療ノ方法タル藥名ヨリ病名ヲ取ルモノ多シ此人物品ノ名稱モ尙ホ之ト同シク裁判所ニ於テ救濟ヲ求ムル方法ヨリ名稱ヲ付シタルモノト思ハル此當時ニ於ケル物品トハ全ク人ノ耳目ニ觸ル、モノニシテ且ツ動カシ得ヘキモノヲ云ヒ決シテ無形ノ性質ヲ帶フルモノハ人物品中ニ包含セラレス然ノミナラス當時ニ於テハ未ダ無形ノ性質ヲ帶フル財産ハ發生セサルナリ此點ニ於テ人物品ト實物品トノ間ニハ大ナル差異アリ即チ實物品中ニ無形財産アリテ其大部ヲ占ムレトモ人物品中ニハ少シモ無形財産ヲ包含スルコトナシ何トナレハ無形財産ノ發達シタルハ近世ノコトナレハナリ此ノ如ク古代ニ於テハ無形人産存在セサルモ訴權即非行又ハ破約ヨリ生



スル損害賠償金又ハ期滿貸金ヲ請求スル爲メニ裁判所ニ訴訟ヲ起ス權ハ古代ヨリ存在セリ英法學者ハ之ヲ稱シテ訴訟產ト云ヒ以テ有形人產即占有產ト區別セリ訴訟產トハ素ヨリ價值アル權利ナレトモ古代ニハ通常財產タルノ性質ヲ有セザリシ其故ハ通常財產ハ自由ニ他人ニ讓與スルヲ得ル性質ノモノナレトモ訴訟產ノ猥リニ他人ニ讓與スルヲ許サ、ルヲ以テ通常財產ノ性質ヲ欠クモノナリ然ラハ一步進ンテ何故ニ法律ハ訴訟產ノ移轉ヲ許サ、ルカト云フニ若シ訴訟產ヲ通常財產通り猥リニ他ニ移轉スルコトヲ許ストキハ社會ニ亂訴健訟ノ増加スルモノト思惟シタルニ依リ之ヲ禁シタルモノナルニシ法律ハ宙ニ其移轉ヲ禁止スルノミナラス若シ之ヲ移轉スルモノアルトキハ健訟罪トシテ之ヲ罰スルコト、ナレリ然レトモ此常態ハ久シク繼續スルヲ得スシテ終ニ社會ノ進歩ト共ニ消滅スルニ至レリソハ此訴訟產中ニ債權ナルモノアリ此債權ナルモノハ非常ニ増加シテ且ツ必要ノモノト認メラレ而シテ此債權ノ讓與ヲ禁止スルトキハ商業取引上ニ非常ノ不便ヲ來スルヲ以テ此不便ヲ除去スルカ爲メ商人社會ニハ自ラ習慣アリテ爲換手形上ノ債權ハ手形ノ裏書ニヨリテ移轉スルコト、ナレリ然レトモ

其他ノ債權ハ依然舊慣ヲ守固シテ之ヲ移轉スルヲ許サ、ルナリ去レト社會ノ進歩ト共ニ間接ニ之ヲ他ニ讓與スルノ方法ヲ發見シタリ其方法トハ訴權ヲ讓受ケタル人カ讓渡人ノ名義ヲ以テ起訴スルコトニシテ其實矢張り讓與ノ事實ハ存在スルモノニシテ單ニ外形ヲ裝フタルニ過キサルナリ其後ヘンリ第七世ノ時代ニ至リテ訴訟產ハ正當ナル報酬ニヨリテナレハ他人ニ讓與スルヲ得ルノ規則ヲ設ケタリ但シ健訟ノ爲メナルトキハ之ヲ他ニ讓與スルヲ許サ、ルナリ此ノ如ク健訟ノ目的ヲ以テ讓與スル外ハ總テ訴訟產ノ移轉ヲ公許セシテ以テ終ニ訴訟產ハ人產中ノ重モナル財產トハナレリ殊ニヘンリ第八世ノ條例ニヨリテ益々此財產ノ價值ヲ増シタリソハ此時代マテハ貸金ニ利息ヲ付スルコトヲ禁止セシモ此條例發布以後ハ或制限マテハ利息ヲ付スル契約ヲ有効ト認ムルニ至リタレハナリ此利息ノ點ニ付テハ英法ハ三變セリ即最初ハ全ク利息ヲ付スルコトヲ禁止セシモ中世ニ至リテハ或ル制限マテハ利息ヲ付スルコトヲ許シ近世ニ至リテハ全ク其制限ヲ廢止シタリ故ニ此條例發布以下ハ金錢ノ貸借物品ノ質入等盛行ハレテ古法ノ未ダ曾テ知ラサル一種ノ人產ヲ生スルニ至レリ其後アン女王ノ



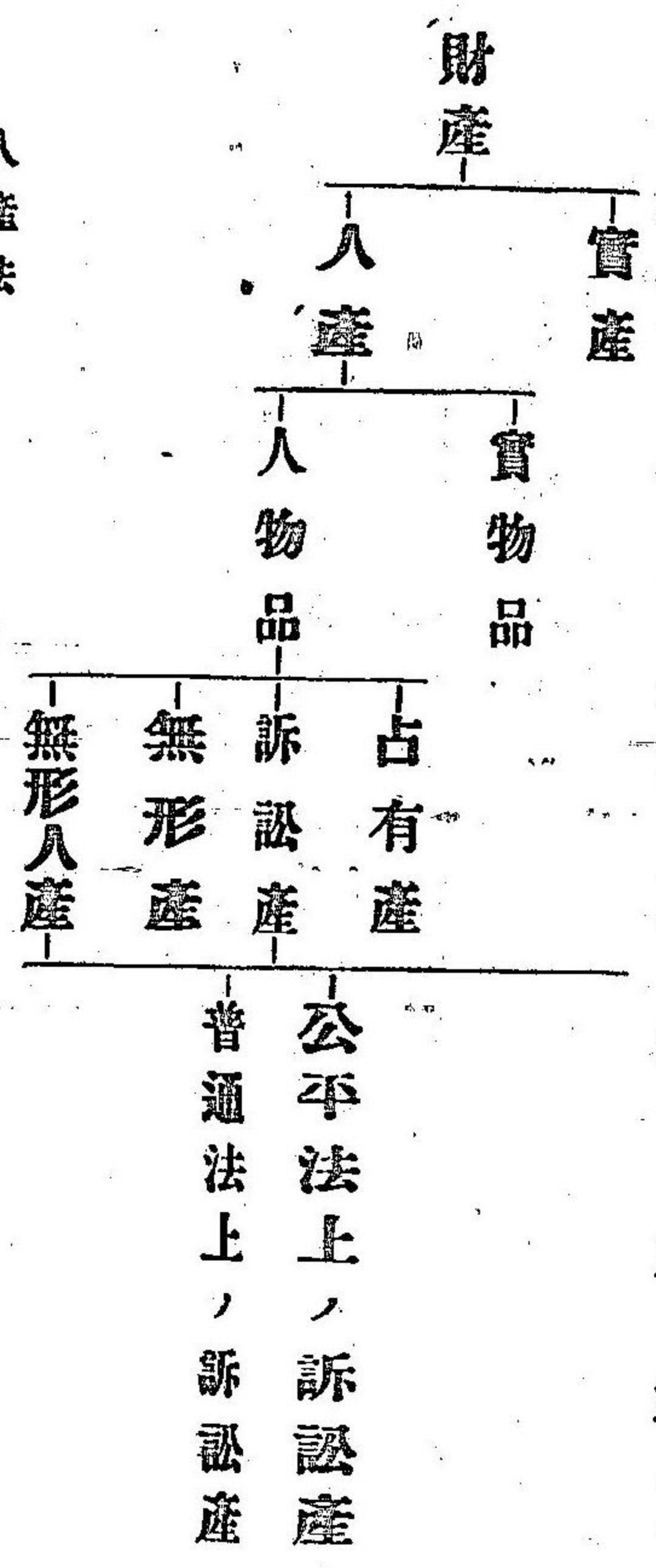
時代ニ於テ亦一ノ條例ヲ發シ約束手形モ爲換手形同様ニ裏書并ニ引渡ニヨリテ讓與スルヲ得ルコト、ナレリ而シテ晚近ノ條例ニヨレハ船荷證書若クハ生命海上保險證書ノ讓受人ハ讓受人自身ノ名義ヲ以テ起訴スルヲ得ルニ至レリ然レトモ一千八百七十五年十一月一日マテハ其他ノ訴訟產ヲ讓受クルモ讓渡人ノ名義ヲ以テスルニ非サレハ起訴スルヲ得ザリシモ同年同月以後ハ讓渡人ハ自由ニ書面ヲ以テ債主權ヲ讓渡スコトヲ得讓受人ハ自分ノ名義ヲ以テ起訴權ヲ有スルニ至レリ尤モ此場合ニ於テモ讓渡人ハ書面ヲ以テ債主權ヲ他ニ移轉スルコトヲ債主ニ通知スルノ義務ハ存在セリ

右訴訟產ノ外ニ尙ホ衡平法上ノ訴訟產ナルモノアリ此衡平法上ノ訴訟產ハ一千八百七十三年并ニ五年ノ上等裁判所構成法ノ發布以前ニアツテハ唯々衡平法裁判所ニ出訴シテ其執行ヲ請求スルノ權アルノミナリシ彼ノ死者遺留財產ノ如キ其一例ナリ故ニ若シ死者ノ管財人カ其遺留財產ヲ讓受人ニ渡サ、ルトキハ其權利者ハ唯々衡平法廷ニ出訴スルノ權ヲ有スルノミニシテ普通法廷ニ出訴スルヲ得サルナリ此衡平法上ノ訴訟產ハ今マテ述ヘシ普通法上ノ訴訟產ニ異ナリ最初

ヨリ自由ニ他ニ移轉スルヲ得且ツ讓受人ノ名義ヲ以テ起訴スルヲ許セリ

尙ホ近世ニ至リテ普通法ノ未ダ曾テ夢想セサル新奇ノ財產ヲ發生セリ即掘割並ニ鐵道ノ株其他株式會社ノ株券、專賣權、版權ノ如キ新財產ヲ生シテ實ニ今日富ノ一大泉源ヲナセリ而シテ此等ノ新財產ハ總テ人産ノ性質ヲ帶ヒ其中ノ多分ハ明ニ條例ヲ以テ人産ナリト確認セラレタリ又此等ノ新財產ハ無形ナルヲ以テ無形人産トモ稱スヘキモノナリ然レトモ前述ノ如ク歴史上此等ノ新財產ヲ編入スヘキ適當ノ階級ナキヲ以テ止ムヲ得ス之ヲ訴訟產中ニ排置セシモ其實訴訟產トハ大ニ性質ヲ異ニスルモノナリ

今マテ述ヘシ英國財產ノ種類ヲ圖ニ示セハ左ノ如クナルヘシ



人産法



第三回

第三章 人產ト實產トノ區別

人產トハ性質上動カシ得ヘキモノニシテ實產トハ性質上動カシ得ヘカラサルモノナルコトハ人口ニ贈灸スルノ區別ニシテ何人モ知得スル所ナレハ別段詳細ニ説明スルヲ要セス依テ余ハ茲ニハ人產ト實產ト法律上ヨリ生スル結果ノ區別ヲ述ヘント欲ス

實產ハ封建制度ノ下ニ發達シタル財產ナレハ從テ之ヲ支配スル法律モ封建ノ餘臭ヲ帶フヘケレトモ人產ハ羅馬法ヨリ導カレタル法律ノ支配スル所ナレハ毫モ封建制度ノ影響ヲ受クルコトナシ是ニ於テカ實產ト人產トノ間ニ大ナル差別ヲ生ス實產ナレハ其所有者カ死去ノ際別段遺囑證書ヲ作爲セサルトキハ當然相續人ニ移轉スヘキモノナレトモ之ニ反シ人產ノ所有者カ遺囑證書ヲ作爲スルコトナシテ死去シタルトキハ古昔ナレハ宗教裁判所中世ナレハ遺囑裁判所當今ナレハ上等裁判所ノ遺囑部ニ於テ撰定シタル管財人ニ一先ツ財產ノ所有權移轉シ而シテ管財人ハ更ニ死者ノ近親ニ之ヲ分配スルモノナリ之レ實產ト人產トノ第一

ノ區別ナク又實產ニハ法律上完全ノ所有權アルコトナシ實產ニ付キ享有セラルヘキ最上ノ財產權ハ單純財產權ニ過キザルナリ之ヲ換言スレハ實產上ニ有スル最上財產權ハ自由保有權タルニ止マルモノトス故ニ英國ニ於ケル總テノ土地ハ保有セラルヘキ目的物トハナレトモ所有セラルヘキ目的物トナルモノニ非ス古語ニ曰ク普天之下、率土之濱、莫非王土ト土地ノ所有權ハ獨リ帝王ニ屬スルモノニシテ敢テ人民ノ享有シ得ヘキモノニ非ス故ニ土地ノ保有者死去スルトキハ土地ハ帝王ノ所有ニ歸ルモノトス之ニ反シテ人產ハ完全所有權ノ目的物ニシテ保有ノ目的物ニ非ス何故ニ實產ト人產トノ間ニハ此ノ如キ相違ヲ生スルヤト云フニ人產ニハ保有財產權ノ存スヘカラサル理由アリテ存ス即古代ニ於ケル人產ノ性質ハ既ニ述ヘタル如ク人ノ身体ニ携帶シ得ヘキ物品ニ限リテ封建制度ニヨリ保有財產權ヲ認ムヘキ性質即永久ノ性質ヲ欠クヲ以テ完全所有權ノ目的物トナスコトヲ得ルモ決シテ保有財產權ノ目的物トナスコトヲ得サルナリ後世社會ノ進歩ト共ニ人產モ其價額ト種類トヲ増加シ追々人產中ニモ永久性質ヲ有スルモノアルニ至レリ然レトモ古代ニ於テハ保有財產權ハ實產ノミニ限ルヲ以テ近世ニ



至リテモ尙ホ此等永久ノ性質ヲ有スル新財産ニ保有財産權ヲ識認セサルナリ之  
レ實產ト人產トノ第二ノ區別ナリ尙ホ二者區別ノ結果ハ動產法上重大ノ關係ヲ  
有スルモノナレハ後回ニ至リ論スル所アルヘシ

占有產

第一篇 占有產

第一章 相續人ニ移轉スル物品

占有產トハ自ラ運動スルモノカ若クハ他ヨリ動カシ得ヘキ性質ノモノニシテ目  
ニ見ヘ手ニ觸ル、者ヲ云フ蓋シ占有產ノ名稱ノ來ル所以ハ實際占有シ得ヘキ物  
品ナルヲ以テナリ即家具、牛馬、鋤、貨幣、船舶等ノ如キモノヲ云フ此占有產ニ元來  
完全所有權ノ目的物ニシテ保有財産權ノ目的物ニ非サレハ從テ之ヲ讓渡ス手續  
モ實產ヲ讓渡ス方法トハ大ニ其手續ヲ異ニスルモノナリ既ニ述ヘタル如ク占有  
產ハ所有者死去ノ際遺囑アレハ遺囑管財人ニ移轉シ若シ遺囑ナキトキハ無遺囑  
管財人ニ移轉スルモノニシテ死去ノ相續人ニ移轉スルモノニ非ス之ヲ畧言スレ  
ハ占有產ハ相續人ニ移轉スルモノニ非ズシテ近親ニ分配スルヲ以テ一般ノ原則  
トス然レトモ此一般ノ原則ニ例外アリ即相續人ニ移轉スル性質ノ占有產アリ蓋

相續人ニ  
移轉スル  
物品

地券

シ此等ハ土地ニ密接ノ關係アリテ自ラ土地ノ臭氣ヲ帶フルカ故ニ土地ト共ニ相  
續人ニ移轉スルモノト定メタルモノナリ佛法ニテハ此ノ如キ財産ヲ稱シテ用法  
上ノ不動產ト稱セリ今其重ナル種類ヲ舉シレハ地券狀、世襲物品、固着物、植物、并ニ  
野禽獸、如キモノヲ云フ以下之ヲ節ニ分テ逐次詳細ニ説明セン

第一節 地券 (Tith's deeds)

地券ハ性質上動カシ得ヘキモノニ相違ナキモノ之ヲ物品ト稱スルコトヲ得ス其故  
ハ地券ハ土地ノ骨髓ナリト云ハル、位ニシテ土地トハ極メテ密接ノ關係ヲ有シ  
土地ヲ讓渡ストキハ別段地券ヲ讓渡スコトヲ明言セサルモ當然讓受人ニ移轉ス  
ル如キ性質ノモノナレハナリ又遺囑ヲ以テ土地ヲ讓渡シタルトキハ土地讓受人  
ハ當然地券ヲ所有スルノ權アリ英國ニ於テハ古代土地ノ讓渡ニ付テハ通常讓渡  
人ニ於テ擔保ヲナスコト、ナレリ而シテ此場合ニ於テハ讓渡人ハ自分ノ擔保ス  
ル土地ノ地券其他所有權ヲ證明スルニ必要ナル所ノ證書ヲ所持スルヲ規則トセ  
リ若シ此ノ如ク讓渡人ニ於テ擔保ヲナスシテ土地ヲ讓渡シタルトキハ讓受人  
ニ於テ地券ヲ握有スルモノトス何トナレハ讓渡人ニ於テ之ヲ所持スルノ必要ナ



ケレハナリ然レトモ近世土地ノ讓渡ニ付テハ通常讓渡人ニ於テ擔保ヲナサズ故  
 ニ讓渡人ニ於テ他ニ其地券ニ關係スル土地ヲ有スルカ若クハ其讓渡シタル土地  
 ニ付キ尙ホ權利ヲ保有スルトキハ地券ヲ自身ニ所持スルモ然ラサルトキハ讓受  
 人ニ渡スヘキモノトス又衡平法ノ所謂ル使用ソ方法ヲ以テ土地ヲ讓渡シタルト  
 キ即乙並ニ乙ノ相續人ノ便益ノ爲メニ甲並ニ甲ノ相續人ニ土地ヲ讓渡シタルト  
 キハ其地券ハ讓受人ナル甲並ニ甲ノ相續人ニ移轉スルモノトス其故ハ使用條例  
 (一)ノリ一第八世第二十年ニ發布サレタルモノニシテ其理由ハ英國ハ僧侶ノ威權  
 甚ク盛ニシテ英國土地ノ大半ハ殆ント僧侶ノ所有トナリタルヲ以テ政府ハ僧侶  
 ノ威權ヲ剝奪センカ爲メ條例ヲ發シテ僧侶ニ土地ヲ讓渡ス事ヲ嚴禁セリ然レト  
 モ當時衡平法廷ノ裁判官ハ重ニ僧侶ナルヲ以テ百方術ヲ盡シテ條例ヲ避クルノ  
 方法ヲ攻究シ終ニユース即信託ノ方法ヲ發見セリ此方法ハ土地ヲ僧侶ニ讓渡サ  
 ノト欲セハ先ツ外面上其土地ヲ第三者ニ讓渡シ其利益ハ僧侶ニ與フルノ仕組ニ  
 シテ毫モ條例ニハ抵觸セサルナリ依テ此方法ニヨリテ盛ニ財產ノ移轉行ハレ衡  
 平法モ亦僧侶ノ所有權ヲ識認セリ之ヲ衡平法上ノ所有權ト云フハ單ニ土地保有

四

權ヲ移轉スルコトヲ定メタルモノニシテ別段地券ノ移轉ニ付テハ何等ノ規定ナ  
 キヲ以テ甲者ハ法律上ノ所有者ナルニヨリ地券カ甲者ニ移轉スルヤ當然ナリ然  
 レトモ此說ハ非難ヲ免カレス之ヲ非難スルモノ、曰ク使用條例ニヨリテ乙ヨリ  
 甲ニ所有權移轉スルノ効力ハ少ナクトモ普通法ニヨリテ其所有權ノ甲ニ移轉ス  
 ルト同一ノ効力ヲ有セサルヘカラス而シテ普通法ニヨリテ地券カ甲ニ移轉スル  
 トセハ使用條例ニヨリ地券ハ乙ニ移轉スルモノト云ハサルヘカラスト現ニ愛蘭  
 土ニ於テハ此非難說ニヨリ判決セシマール子對ミノンクハムノ訴件アリ  
 土地ノ單純財產權ヲ有スルモノハ英法上最高等ノ財產權ヲ有スルモノナルヲ以  
 テ地券ニ對シテモ亦完全所有權ヲ有スルモノトス從テ自由ニ之ヲ處分スルヲ得  
 ヘシ然レトモ生涯保有權若クハ制限財產權ヲ有スルモノハ其地券上ニ對スル權  
 利モ亦生涯若クハ制限財產權ヲ有スルニ過キサルナリ  
 生涯財產權ヲ有スルモノニシテ且ツ其目的物タル土地ヲ占有スルトキハ尙ホ其  
 地券ヲモ占有スルノ權アリ去レト此權利ハ單ニ地券ヲ占有スルノミニシテ之ヲ  
 他ニ讓渡スコトヲ得ヌ又年期借地權ヲ有スルモノハ假令ヒ其年期カ永貸ナルニ



モセヨ土地保有者ニ非サルヲ以テ地券ヲ保有スルノ權ナシ然レトモ借地ニ關スル證書ハ享有スルコトヲ得ヘシ故ニ若シ其借地權ヲ他ニ移轉スルトキハ其借地證モ同シシ他ニ移轉スルモノトス

### 第四回

## 世襲人産

### 第二節 世襲人産 (Heir-looms)

英國ニ於テ嚴確ニ世襲人産ト稱スルモノハ甚ク僅少ナレトモ亦財産ノ一種ナレハ之ヲ講述セサルヘカラス借世襲人産トハ如何ナル性質ノモノナリヤト云フニ特別ナル習慣ノ効力ニヨリテ實産ト共ニ所有者ノ相續人ニ遺傳スルモノヲ云フ世襲人産ノ所有者カ土地ヲ相續人ニ遺傳シタル以上ハ遺囑ヲ以テ世襲人産ヲ他ニ讓渡スコトヲ得ス其故ハ凡ソ遺囑ハ遺囑者死亡ノ當時マテハ効力ヲ生セサルモノナルカ故ニ常ニ効力ヲ有スル特別ノ習慣ヲ壓倒シテ其効力ヲ顯出スルニハ既ニ時機ヲ失スルヲ以テナリ然レトモ土地ト共ニ世襲人産ヲ讓渡スコトハ敢テ不當ノ事ニ非サルナリ

世襲人産トハ如何ナル種類ノ財産ヲ包含スルヤト云フニ王冠、貴族ノ寺院墓地ニ

備ヘタル甲冑其他貴族タル地位ニ附属スル各器ノ記號若クハ記念ノ爲メ建設シタル碑標等ヲ指スモノナリ而シテ此等ノ財産ヲ相續スル權利ヲ有スル相續人ハ此等ノ世襲人産ヲ盜取シ若クハ毀損スルモノニ對シテ訴訟ヲ提起スルコトヲ得又地券ヲ藏スル箱モ世襲人産ノ性質ヲ帶フルヲ以テ土地ノ地券ト共ニ讓受人ニ移轉スルモノトス然レトモ地券ヲ藏スル爲殊更ニ作リタルモノニアラサレハ一時之ニ地券ヲ藏置スルモ世襲人産アラス

## 固着物

### 第三節 固着物 (Fixtures)

固着物トハ直接ニ土地ニ附着スルカ若クハ家屋其他ノ建造物ニ附シテ間接ニ土地ニ附着スル動産ヲ云フ古代普通法ノ精神ニヨレハ土地ヲ非常ニ貴重シ物品ヲ大ニ輕視スルヲ以テ終ニ土地ニ附着スル物品ハ總テ土地ノ一部ナリトノ感想ヲ生シ土地ニ附着スルモノハ總テ土地ヲ組成スルト云フ原則ヲ生スルニ至レリ故ニ材木、瓦、石ノ如キ人物品ノ集合ヨリ成立シ而シテ土地ニ固着スル建物ハ土地ノ一部ト見做サレテ別ニ明約ヲ要セスシテ土地ノ讓渡ト共ニ當然讓受人ニ移轉スルコト、ナレリ又家屋其他ノ建物ヲ讓渡シ若クハ書入レスルトキハ其家屋又ハ



建物ニ固着スル格子、暖爐窓、棚ノ如キ通常ノ固着物ハ反對リ約束アルニ非サレハ總テ讓渡サレ書入レラレタルモノト見做サル又之ト同一ノ理由ニヨリ土地家屋ノ所有者カ死去シタルトキハ法律上ノ相続人及遺囑受贈者ハ其土地家屋ニ固着スル總テノ動産ヲ讓受スルノ權アリ

古昔ハ固着物ニ關スル規則甚タ嚴確ニシテ動産一タヒ土地家屋ニ固着スルトキハ其所有權ハ直ニ土地家屋ノ所有者ニ移リ之ヲ附着セシメタルモノハ借地人若クハ借家人ダリト雖モ之ヲ取離スノ權利ヲ有セサリシナリ然レトモ後世ニ至リ此規則ハ年期借地者ニ對シテハ變更セラレ頗ル寬弛ヲ視ルニ至レリ即年期借地者ハ商業上ノ目的若クハ裝飾上ノ目的又ハ家事便宜ノ目的ノ爲メニ設ケタル固着物ナレハ其滿期ニ先テ自由ニ取離スコトヲ得ルニ至レリ去レト農業上ノ固着物ニ付テハ其後久シク古代ノ嚴確ナル法律行ハレタリ然トモ遂ニビクトリヤ第十四年第十五章第二十三章ノ條例第三條ヲ以テ地主ノ書面ノ承諾ヲ以テ一時取リ設ケタル固着物ハ小作人即借地人ノ所有物ニシテ一月前ニ書面ヲ以テ地主ニ通知スルトキハ自由ニ之ヲ取離スコトヲ得ルニ至レリ但シ地主ニ於テ之ヲ買

受ケントスルトキハ該條例ニ定ムル方法ニヨリ評價シテ之ヲ賣買スルコト、ナレリ尙ホヒクトリヤ第三十八年第三十九年ノ條例第九十二章ハ小作人カ借地ニ附着セシメタル農業上ノ器械其他ノ固着物ニ付キ益々古代法ヲ寬弛ニナシタリ然レトモ此條例ハ小作人カ之ヲ設ケルニ當リテ書面ヲ以テ地主ニ通知セシメ建設スルカ若クハ之ヲ建設スルニ付キ地主ヨリ書面ノ故障ヲ受ケルニ拘ハラス建設シタル蒸氣機關ニハ適用スルコトヲ得ス又此條例ハ全部農業上ニアラス又ハ全部牧畜上ニアラサル固着物又一部農業上ニシテ殘部牧畜上ノ固着物若クハ二イリシル以下ノ土地ノ固着物ニハ適用スルコトヲ得ス尙且ツ古代法ノ原則ハ生涯保有者ノ遺囑管財人ニ對シテモ大ニ寬大トナリテ遺囑管財人ハ死者カ曾テ商業上裝飾上便宜上取リ設ケタル所ノ固着物ヲ取離ス權ヲ有スルニ至レリ然レトモ古代普通法ノ精神ハ自由保有者ノ附着セシメタル固着物ニハ依然トシテ適用サレタリ例ヘハ年期借地者ハ其借地間ニ取設ケタル所ノ裝飾上ノ煙筒ヲ取去ルコトヲ得ルモ自由保有者ニ於テ之ヲ取設ケタルトキハ其所有權ハ家屋ト共ニ相続人若クハ遺囑受贈者ニ移轉スルモノトス又年期借地者カ鐵製造ノ爲メカ



若クハ石炭採掘ノ爲メニ取設ケタル機械ハ之ヲ取去ルコトヲ得ルモ自由保有者ノ取設ケタルモノナルトキハ其所有權ハ當然相續人若クハ遺囑受贈者ニ移轉スルモノナリ然レトモ壁間ニ搜入セスシテ唯タ針ヲ以テ打付ケタル鏡又ハ裝飾上附着セシメタル掛物ノ如キハ人産ノ一部ト見做サル、ヲ以テ自由保有者ノ相續人ニ移轉セスシテ其管財人ニ移轉スルモノトス

植物

第四節 植物 (Chattel's vegetable)

植物トハ其名稱ノ指示スル如ク五穀、菓物、草木ノ如ク植物性ノ動産ヲ云フ總テ此等ノ物品ハ土地ニ附着スル間ハ多クノ目的上ヨリシテ土地ノ一部ト認メラル、モノニシテ土地ノ讓渡ト共ニ當然讓受人ニ移轉スルモノトス然レトモ植物ハ讓渡サ、ルコトヲ殊更ニ約束スルトキハ讓渡人ノ人産トシテ存スルモノナリ又自由保有者ハ植物ノミヲ他ニ讓渡スコトヲ得若シ之ヲ讓渡シタルトキハ假令ヒ之ヲ伐採セサルモ讓受人ノ人産トシテ存スルモノトス去レト自由保有者カ之ヲ他ニ讓渡スノ約ヲサス又遺囑贈與ヲモナサスシテ死去シタルトキハ法律ハ農業上ハ勞力ヨリ收穫スル所ハ年産物ト然ラサルモノハトテ區別シテ各々異ナリタル

規則ヲ適用ス、農業上ノ勞力ヨリ收穫スル年産物ハ之ヲ稼産 (Emblement) ト稱シテ之ヲ收穫スル權利ハ死者ノ管財人ニ移轉シテ相續人ニ移轉セス之ハ實産ニ非スシテ人産ナルヲ以テナリ之ニ反シテ年産物ニ非サルモノハ土地ト共ニ死者ノ相續人ニ移轉スルモノニシテ管財人ニ移轉セス而シテ此二者ヲ區別スル理由ハ年産物即稼産ハ土地所有者ノ人産ヲ消費シテ得タル結果ナレハ人産ノ移轉ヲ受クルモノニ於テ之ヲ收穫スルノ權アルハ當然ノコトナリトノ説ニ依ル故ニ穀類若クハ麻ノ如キ人ノ勞力ヨリ生スル年産物ハ相續人ニ移轉セスシテ管財人ニ移轉スルコト、ナレリ而シテ樹木(材木ト爲スヘキモノモ菓實ヲ生スルモノモ)ノ如キハ一年內ニ其勞力ニ報フル收穫ヲ得サルモノナレハ實産ト見做シテ土地ト共ニ相續人ニ移轉スルモノナリ

小作人カ土地ヲ自分ノ生涯又ハ年期ヲ限り借り受ケタル場合ニ於テ其土地内ニアル樹木ニ關シテ何等ノ契約ヲモ結ハサルトキハ其樹木ノ所有權ハ依然トシテ地主ニ存シ小作人ハ單ニ其樹木ヨリ生スル菓實ヲ採取シ若クハ薪用ニ細枝ヲ折取シ其他樹陰ニ於テ家畜ヲ飼養スルノ權ヲ有スルニ過キサルナリ去レハ樹木ヨ



リ生スル菓實若クハ採ラレタル灌木細枝ノ所有權ハ直ニ小作人ニ移轉スレトモ其本幹タル樹木ヲ伐採シタルトキハ其所有權ハ地主ニアルモノトス但茲ニ云フ樹木トハ櫟、秦皮、楡ノ如キ建築用ノ材木トシテ使用スヘキモノヲ云フ凡小作人ニハ損荒ノ責ヲ負フモノト、負ハサルモノト、又損荒ノ責ヲ負フモ出訴ヲ免ル、モノ、三アリ損荒ノ責ナキ小作人ナレハ農業用ノ爲ニ伐採シタル樹木ハ之ヲ伐採シタルトキヨリ自分ノ所有物トナルモ單ニ其損荒ニ對シテ出訴ヲ免ル、ニ止マルトキハ其伐採シタル樹木ハ地主ノ所有物ニシテ小作人ハ唯々其樹木ヲ伐採シタルヨリ生スル損害要償ノ訴ヲ免ル、ニ過キサルナリ之ニ反シテ損荒ノ責ヲ負フ小作人カ樹木ヲ伐採シタルトキハ其伐採シタル樹木ノ所有權ハ地主ニ存スルノミナラス尙ホ地主ニ向テ樹木ヲ伐採シタルヨリ生スル損害ヲ要償スルノ責アリ

第五回

野動物

第五節 野動物 (Animals ferre nature)

野動物ナル語ハ人家ニ畜馴スル動物ニ對スル名稱ニシテ原野ニ翱翔スル禽獸河

海ニ游泳スル魚類ヲ云フ原野樹木ニ飛躍翱翔スル禽獸並ヒニ河海ニ游泳スル魚類ハ現ニ之ヲ捕獲スルニ非サレハ完全所有權ヲ得ルコト能ハサルモノナレハ動物ニ關シテハ他ノ動産ニ關スル規則ヲ適用スルコトヲ得サルモノナリ例ヘハ既ニ述ヘタル如ク土地ノ所有者カ死去スルトキハ其土地上ニアル總テノ動産ハ死者ノ管財人ニ移轉スルノ規則ナレトモ其土地上ニ翱翔スル野獸若クハ土地内ノ川池ニ游泳スル魚類ハ他ノ動産ノ如ク死者ノ管財人ニ移轉スヘキモノニ非ス又園園若クハ地塘ヲ所有スルモ之ニ棲息スル麋鹿、兔或其他ノ魚類ニ對シテハ完全ノ所有權ヲ有セスシテ唯此等ノ野禽獸カ現ニ其園園若クハ地塘ニ棲息スル間之ヲ獵リ捕フルノ權ヲ有スルニ過サルナリ然レトモ一旦此等ノ野禽獸ヲ捕獲シテ飼ヒ馴スカ若クハ此等ノ野禽獸ヲシテ逃去スル能ハサル如クナストキ初メテ完全ノ所有權ヲ得ルモノトス去レハ園園ニ放タル、麋鹿モ既ニ飼ヒ馴サル、モノカ若クハ地塘ニ遊フ魚類モ既ニ魚塘中ニ入レラル、カ又鳩箱ニアル鳩ノ如キハ相續人ニ移轉セスシテ死者ノ管財人ニ移轉スルモノトス西洋ニ於テハ鳩ヲ以テ動産ノ重モナルモノトナセリ又古代ニ於テハ鷹及狩犬ハ人産ニ非スシテ土地ト



共ニ相續人ニ移轉スルモノトナセリ然レトモ近世ニ至リテハ總テ此等ヲ以テ人産ノ一種トナセリ

土地上ニアル野禽獸ヲ捕獲スルノ權ハ箇ニ其土地所有者ニ存スルノミナラス一時ニテモ土地ヲ占有スルモノハ其之ヲ占有スル間自分一人ニテ其土地上ノ禽獸ヲ捕獲スルノ權ヲ有スルモノトス然レトモ若シ土地ノ所有者ニ於テ此獲捕權ヲ存留スルトキハ同地主ニ於テ之ヲ捕獲スルノ權ヲ有スルノミニシテ決シテ土地占有者ニ於テ之ヲ捕獲スルノ權ナシ而シテ地主ハ自身ニ之ヲ捕獲シ得ル權ヲ有スルノミナラス更ニ他人ニ其土地内ニアル禽獸ヲ捕獲スルノ權ヲ與フルコトヲ得ヘシ若シ正當所有者ニ非サルモノカ他人ノ土地内ニ於テ野禽獸ヲ捕獲シタルトキハ其所有權ハ何人ニ存スルヤト云フニ英國ニ於テ此點ニ關シ古來ヨリ行ハル、規則ハ左ノ如シ

第一 吾カ領地内ニ於テ禽獸ヲ發見シ他人ノ領地内ニマテ追跡シ茲ニテ之ヲ捕獲シタルトキハ其禽獸ノ所有權ハ吾ニ屬スルモノトス

第二 吾レ他人ノ獵場ニテ禽獸ヲ發見シ之ヲ第三者ノ獵場ニテ捕獲シタルトキ

ハ其禽獸ノ所有權ハ他人ニ存スルモノトス

第三 吾レ他人ノ領地内ニ於テ禽獸ヲ發見シ同領地内ニ於テ之ヲ捕獲シタルトキハ其禽獸ノ所有權ハ土地所有者ニアリ

第四 第三ノ場合ニ於テ其禽獸ヲ第三者ノ土地内ニマテ追跡シ其場ニ於テ之ヲ捕獲シタルトキハ其禽獸ノ所有權ハ土地ノ所有者ニアラスシテ獲人タル吾レニ屬スルモノトス何トナレハ所有權ハ土地ヲ限ルモノニシテ而シテ此禽獸ハ他人ノ領地内ニテ發見セラル、モ其所ニテ捕獲セラレタルニ非ス又第三者ノ土地内ニ於テ捕獲セラル、モ其土地ニ於テ發見セラレタルニ非サレハ其所有權ハ現ニ禽獸ヲ捕獲シタル獵人タル吾ニ屬スルモノトス然レトモ吾ハ土地所有者ニ對シテ土地侵害ノ責任ヲ免ル、コトヲ得ス

右ノ諸規則ハ古代ヨリ今日マテ行ハル、モノナリ然レトモ獵物ニ關シテハウ井リヤム第二年第三十二章ノ條例ヲ以テ多少從來ノ規則ヲ變更セリ今此規則ニヨレハ野禽獸ヲ獵得シタルトキハ其所有權ハ之ヲ獵リスル權利ヲ有スル人ニ屬スルモノトナセリ



第二章 發見品取戻ノ訴訟、動産委託、動産差押

既ニ總論ニ於テ人産ハ完全所有權ノ目的物ニシテ土地ノ如ク保有權ノ目的物ニ非サルコトヲ述ヘシモ此原則ニ付テハ外形上例外ノ如ク見ユルモノ少ナカラズ依テ本章ニ於テハ其例外ノ如キモノヲ觀察セント欲ス  
抑モ物品ノ所有權ハ一時ニ一人ニ屬スルモノニシテ同時ニ數人ニ屬スルモノニ非ス(共有者ハ格別ナリトス)然レトモ土地ナレハ同時ニ數人ニテ其財產權ヲ有スルコトアリ例ヘハ甲者ハ現在ノ財產權ヲ有シ乙者ハ殘餘財產權ヲ有シ丙者ハ復歸財產權ヲ有スルカ如シ故ニ土地ニ關シテハ同時ニ所有權ヲ有スルモノ三人アルコトアリ去レト動産ニハ殘餘若クハ復歸ノ如キ財產權ナキヲ以テ土地ノ如ク同時ニ數人ニテ所有權ヲ有スルコトハ能ハサルナリ唯ク動産ニハ占有權ヲ合セタル所有權ト合セサル所有權トアルニ過キサルナリ  
右ニ述ヘタル簡單ナル規則ヲ考フルトキハ困難ナル疑問ヲ氷解スルコトヲ得ヘシ然レトモ之ハ第一章ニ述ヘタル動産ニ適用スルコトヲ得ス何トナレハ該章ノ如キ動産ハ土地ト密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ寧ロ實産ヲ支配スル規則ヲ以テ支

配シ得ルモノ少ナカラサレハナリ

第一節 發見品取戻ノ訴訟

物品上ノ所有權カ占有權ヲ合セタルトキハ所謂ル完全ノ所有權ニシテ即普通ノ場合ナリトス然レトモ此普通ノ狀態上ニ變化ヲ來ス狀態往々生スルコトアリ例ヘハ物品ヲ遺失シタルトキノ如キハ其一例ナリ即此物品遺失ノ場合ニ於テハ遺失者ハ唯所有權ヲ有スルノミニシテ其占有ハ全ク失フタルモノトス然レトモ此ノ如ク占有ヲ失スルモ尙ホ依然所有權ヲ有スルヲ以テ其遺失物品ヲ發見次第何時ニテモ之ヲ占有スルノ權アリ之ヲ法律語ヲ以テ換言スレハ所有權ハ占有權ヲ吸収スト云フ故ニ他人カ之ヲ發見シタル場合ニ於テ何人ノ所有品ナルヤヲ知ルノ方法アルトキハ之ヲ以テ自分ノ所有物トナスコトヲ得ス又之ヲ返還ノ請求ヲ受ケタルトキハ必ス之ヲ所有者ニ返還スルノ義務アリ若シ又拾取者ニ於テ之ヲ正當所有者ニ返還スルコトヲ拒ミタルトキハ其拒ミタル事實ノミヲ以テ冒認シタルコトヲ證明スルノ證據トナルモノトス此ノ如キ侵害ニ付テハ英法ハ格別ノ救濟權ヲ與ヘタリ之ヲ發見品并ニ冒認物取戻ノ訴訟ト云ヒ或ハ之ヲ單ニ發見品



取戻ノ訴訟トモ云フ凡ソ人カ遺失物ヲ發見シテ拾取スルコトハ敢テ不正ノ事ニ非ス然レトモ其所有者ヨリ返還ノ請求ヲ受ケタルニモ拘ハラズ之ヲ返還セズシテ自分ノ物ニ冒認スルトキ茲ニ初メテ財產侵害ノ私犯ヲ成立スルモノトス此場合ニ於テハ前述ノ訴訟ヲ以テ之カ救済ヲ請求スルコトヲ得ヘシ今日ニ於テハ此訴訟ハ被告人カ之ヲ占有スルハ拾取スルニヨルト然ラサルトテ問ハス之ヲ自分ノ物品ト冒認シタルトキ此救済法ヲ提出スルヲ得ルコト、ナレリ而シテ之ヲ原告ノ方ヨリ見レハ原告カ此訴訟ヲ提起スルヲ得ル場合ハ自ラ人産ノ占有權ヲ有スルカ若クハ其人産上ニ占有權ヲ吸収スヘキ所有權ヲ有スルトキノミニ限ルモノニシテ、尙ホ之ヲ換言スレハ此訴訟ハ一ニ占有權ニ依屬スルモノニシテ所有權トハ全ク離レテ成立スルモノトス故ニ遺失物ヲ拾取シタル者ガ未ダ正當ノ所有者ヲ知ラサル前ニ於テ不法ニモ第三者ヨリ其遺失物ヲ奪却セラル、トキハ未ダ正當所有者ノ何人ナルヤ分明ナラサルヲ以テ拾取者ハ之ヲ占有スルノ權アルヘシ從テ第三者ニ對シテ發見品取戻ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘシ之レ遺失物上ノ所有權ハ正當所有者ニ屬スルモノナレトモ其占有權ハ正當所有者ノ顯出スル

マテ拾取者ニ存スルヲ以テ若シ其遺失物ヲ奪却スルモノアルトキハ之ニ對シテ取戻ノ訴訟ヲ提起シ得ルハ勿論ノコトナレハナリ又前述ノ如ク正當所有者即所有權ヲ有スルモノハ占有權ヲ吸收スル權アルヲ以テ若シ拾取者カ之ヲ冒認シタルトキハ直ニ此訴訟ヲ起シテ救済ヲ請求スルコトヲ得ヘシ以上ハ人産ノ所有權ハ占有權ト共ニ成立スルコト、及ヒ占有權ト離レテ成立スル場合アルコトヲ説明シタルニ過キス而シテ發見品取戻ノ訴訟ハ占有權ニ依屬スルモノニシテ所有權ノ有無ヲ確認スルモノニ非ス去レト時トシテハ所有權ノ存在ヲ確認スルコトアルモ之ハ偶然ノコトタルニ過キス此ノ如ク英國訴訟法ニ於テハ占有權ヲ確認スルノ方法アルモ獨リ人産及實産ノ所有權ヲ確認スルノ方法ナキハ甚タ奇トスル所ナリ然レトモ之モ考一考セハ餘リ奇トスルニモ足ラス既ニ總論ニ於テ述ヘタル如ク所有權ハ素ト占有權ノ思想ヨリ發達シ來ルモノナレハ占有權ニ關スル訴訟方法ハ古昔ヨリ之レアルモ所有權ニ關スル訴訟方法ハ之レナキナリ加之今日トテモ占有權ニ關スル方法ヲ以テ所有權ヲ證明スルノ方法トナス此方法アルヲ以テ見テモ占有權カ所有權ヨリ最初ニ發達セシコトヲ知



ルニ足ルヘシ

第二節 動産委託

ウイリヤムジョンス氏ノ説ニヨレハ動産委託トハ明約若クハ黙約ニ基ク所ノ信  
 托上ノ物品ノ引渡ニシテ而シテ其委託ノ目的ヲ執行シ終ルカ若クハ委託ノ期限  
 カ經過スルトキハ其物品ヲ返還スヘキモノナリト凡ソ物品ヲ他ヘ委託スル目的  
 ハ種々アルヘケレトモ今其重ナルモノヲ舉クレハ第一單ニ信誼上朋友親戚等ニ  
 貸與スルモノ(第二)倉庫ニ保護預チナスモノ(第三)遠方ニ運送スル爲メ運送者ニ委  
 托スルモノ(第四)賣却ノ爲メ代理人若クハ仲買人ニ委託スルモノ(第五)負債ノ爲メ  
 質入シ若クハ抵當トナスモノ等ナリ此ノ如ク委託ノ目的ニハ種々アレトモ總テ  
 委託ニ於ケル物品ノ所有權ハ獨リ一人ニ屬スルトノ簡單ナル規則ハ何レノ場合  
 ニモ適用セラル、ナリ即物品ヲ委託スルトキハ其占有權ハ勿論受托者ニ移ルモ  
 其所有權ハ依然トシテ委託者ニ存在スルモノナリ而シテ物品ヲ受托スル間ニ於  
 テ第三者來リ其占有ヲ奪却シ不法ニモ之ヲ冒認シタルトキハ其占有ヲ回復スル  
 權ハ委託者ニアリヤ將タ受托者ニアリヤト云フニ委託ノ性質ニヨリテ多少異ナ

レハ一概ニ論スルコトヲ得ス即委託者ニ存スルコトアリ受托者ニ存スルコトアリ  
 リテ一樣ナラス既ニ前述セシ如ク第一第二第三第四種ノ如キ單一委託ト稱スヘ  
 キモノニ於テハ受托者ニテモ委託者ニテモ同シク第三者ニ對シテ物品取戻ヲ請  
 求スルヲ得ヘシ之レ單一委託ト稱スルモノニ於テハ受托者ハ委託者ノ占有權ヲ  
 拒絕スルノ權ヲ有セサルモ亦受托者自身ニモ勿論占有權ヲ有スルヲ以テ此訴訟  
 ヲ提起スルコトヲ得ヘク又委託者ハ現ニ占有權ヲ有セサルモ所有權ヲ有スルヲ  
 以テ彼ノ所有權ハ占有權ヲ吸収スルトノ原則上ヨリシテ此訴訟ヲ提起スルコト  
 ナ得ヘシ一言以テ之ヲ云ヘハ此數種ノ委託ニ於ケル受托者ハ寧ロ委託者ニ對シ  
 テハ奴隸ノ地位ニアルモノニシテ受托者ノ占有ハ即委託者ノ占有ナリト解釋セ  
 サルヲ得ス然レトモ非行者ニ對シテ二重ノ損害要償ヲナスヘガラサレハ委託者  
 若クハ受托者ノ一方カ賠償金ヲ得タルトキハ他ノ一人ハ之ヲ請求スルコトヲ得  
 サルナリ

第六回

前回ニ於テハ單一委託ノコトヲ講了シタルヲ以テ今回ハ單一ニアラサル委託ニ



付キ觀察スル所アラントス  
 若シ委託ノ性質單一ニアラシテ受托者カ委託者チシテ其委託物ノ占有ヲ得セ  
 シメサルノ權利ヲ有スル場合ニ於テハ其物件ノ所有權ハ依然委託者ニ存在スル  
 コト素ヨリ論チ俟タスト雖モ其委託契約ノ成立セル間ハ之ヲ占有スルノ權利ハ  
 獨リ受托者ニアリトス是ヲ以テ若シ其委託物ヲ冒認シテ之ヲ自己ノ使用ニ供ス  
 ル者アルトキハ獨リ受托者ニ於テ物品取戻ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘシ例ヘ  
 ハ物品質取人ハ其質契約ノ消滅セサル間ハ獨リ其物品取戻ノ訴訟ヲ起スコトヲ  
 得テ質置人ハ之ヲ爲スヲ得ス何トナレハ此場合ニ於テ其物品ノ所有權ハ尙ホ質  
 置主ニ存在スルコト勿論ナリト雖モ單一委託ノ場合ト異ナリテ質置人ハ占有權  
 チ吸收スルノ權力ヲ有セサレハナリ  
 凡ソ委託ノ單一ナル場合ト其單一ニアラサル場合トヲ論セス若シ受托者ニ於テ  
 自己ノ使用ニ供センカ爲メ妄リニ受托物ヲ冒認スルトキハ其委託直チニ消滅ス  
 ルヲ以テ委託者ノ所有權ハ占有權ヲ吸收スルノ力ヲ得ルニ至ルヘシ故ニ此場合  
 ニ於テハ委託者ヨリ發見品取戻ノ訴訟ヲ提起シ受托者ニ對シテ物品ノ返還又ハ

物品差留

損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

第三節 物品差留

物件ノ所有主ニアラサル者カ其物件ヲ占有スルコトヲ得ル第三ノ場合即チ其物件  
 上ニ差留權ノ存在スル場合ナリトス差留權トハ他人ノ物品ヲ現有スル者カ負債  
 ノ辨濟ヲ受クル迄之ヲ差留ムル所ノ權利ヲ云フ而シテ之ヲ分テ二種トス特別差  
 留權及一般差留權即チ是レナリ特別差留權トハ負債ノ因テ生スル所ノ物品ヲ差  
 留ムルノ權利ヲ云ヒ一般差留權トハ一般ノ計算ニ對シテ物品ヲ差留ムルノ權利ヲ  
 云フ而シテ此第一種ノ差留權ハ法律ノ寵愛スル所ナリト雖モ第二種ノ差留權即  
 チ一般差留權ハ他ノ債主ヲ措キ單ニ或一人ノ債主ヲ利スルノ傾向アルヲ以テ法  
 律ハ嚴格ニ之ヲ解釋シ毫モ假借スル所アラサルナリ然ラハ特別差留權ナルモノ  
 ハ如何ナル人カ享有スル所ノ權利ナルヤト云フニ此權利ハ普通法ニ於テ物件ヲ  
 受取ラサルヲ得サル人ニ附與スルモノトス例ヘハ運送者又ハ宿屋ノ如キハ其保  
 監スヘキ物品ニ對シテ此權利ヲ享有スルモノナリ但宿屋主ハ宿料ノ支拂ヲ擔保  
 セシメシカ爲メニ旅客ノ身体ヲ差押フルコトヲ得ス又旅客カ現ニ着用スル所ノ



衣服ヲ剝キテ之ヲ差押フルコトヲモ得サルナリ又我保監ハ委ネラレタル物品ニ對シテ勞力若クハ技術ヲ加ヘテ之ヲ變更シ又ハ改良シタル場合ニ於テモ法律上此種ノ差留權ヲ生スヘシ例ヘハ水車屋カ他人ヨリ穀類ヲ春クヘキコトノ委顧ヲ受ケ其仕事ヲ實行シタル場合ニ於テハ其賃金支拂ノ抵償トシテ其粉ヲ差止ルコトヲ得ヘシ艦工カ他人ノ依頼ニ應ジテ船舶ノ修覆ヲ爲シタル場合ニ於テモ亦其船舶ヲ差留メテ以テ修覆料ノ抵償トナスコトヲ得而シテ又伯樂カ馬ヲ訓練シタル場合ニ於テモ其馬ニ對シテ此權利ヲ得ルモノトス但シ單ニ其馬ヲ飼養シタルニ過キサルトキハ此限リニアラス何トナレハ前ノ場合ニ於テハ勞力又ハ技術ヲ加ヒテ物品ヲ變更シ又ハ改良シタルニ後ノ場合ニ於テハ何等ノ變更又ハ改良ヲ爲シタルニアラサレハナリ然レトモ宿屋カ旅客ノ馬匹ヲ保監スル場合ハ此例外トス

倍此差留權ナルモノハ單ニ物品ヲ差留ルノ權利ニシテ毫モ之ヲ賣却スルノ權利ヲ包含セサルナリ又差留人ハ其差留ニ必要ナル入費ヲ請求スルノ權利ナシ又特別差留權ハ難船救助ノ場合ニ於テモ之ヲ實行スルコトヲ得ヘシ辭ヲ換テ之

ヲ言ヘハ海難若クハ公敵ノ危險アルニ方リ船舶又ハ貨物ヲ救助シタルトキハ其勞力并ニ冒險ニ對シテ此權利ヲ生スルモノトス然レトモ此種ノ差留權ハ一千八百五十四年ノ商船條例ニ依リテ一種特別ノ制限ヲ受クルニ至レリ即チ若シ所有主ニアラサル者カ難波物ヲ發見シタルトキハ難波物公領人ニ對シ其引渡ヲ爲スコト是レナリ又船主カ船賃ニ對シテ享有スル所ノ差留ハ千八百六十年ノ改正商船條例ニ依リテ詳細ニ規定セラレタリト雖モ事商船法ノ範圍ニ屬スルヲ以テ茲ニ之ヲ贅セス

上來講述セル所ヲ以テ特別差留權ニ關スル原則ノ要梗ヲ述了シタリ依テ是ヨリ一般差留權ニ付キ講述スル所アラントス  
 一般差留權ノ發生スル原由ヲ分テ(一)明定ノ契約(二)對手人間ノ取引ヨリ推定スヘキ暗黙ノ契約(三)商業若クハ職業ノ習慣ノ三トス其明約又ハ黙約ヨリ生スル場合ハ契約法ニ於テ論究スヘキモノニシテ又困難ナル問題ニモアラサルヲ以テ茲ニ之ヲ省零シ直チニ第三ノ原由ニ付テ講述スヘシ  
 凡ソ商業家ニシテ一般差留權ヲ利用スルコトヲ得ヘキ者ハ銀行、染物師、仲買人、運



送者若クハ保險牙保ノ類ナリトス又代理人ニ於テ自ラ依頼人ノ證書ヲ握有スル  
トキハ職業上ノ報酬ヲ受ケンカ爲メニ此種ノ差留權ヲ實行スルコトヲ得ヘシ然  
レトモ地券ニ對シテ此規則ヲ適用スルコト付テハ須ラツ左ノ事項ニ注意セサルヘ  
カラス

先回ニ於テ講述シタルカ如ク地券ナルモノハ土地ヲ代表スルモノニシテ其土地  
ノ現所有者ニ屬スヘキモノナリ故ニ若シ終身財産ヲ有スルモノカ其地券ヲ代理人  
ニ交付シタリトセハ其代理人ニ於テ享有スル一般差留權ハ訴訟依頼人即チ終身  
財産權ノ所有者カ其地券上ニ享有スル權利ト併存セサルヘカラス是ヲ以テ一朝  
依頼人ノ死去スルコトアルトキハ縱令代理人ニ於テ未タ報酬若クハ手数料ヲ受  
取ラサル場合ニ於テモ尙ホ且ツ殘餘財産權ノ所有者ニ其地券ヲ引渡サ、ルヘカ  
ラス何トナレハ終身財産權ノ所有者ハ自己ノ死亡スルト同時ニ其地券ヲ所有ス  
ルノ權利ヲ失却スルモノナレバナリ又代理人カ土地ノ質取主ヨリ訴訟ノ依頼ヲ  
受ケタル後質置人ニ於テ其土地ヲ受戻シタルトキハ其地券ハ直チニ質置主ニ返  
附セラルヘキモノトス而シテ又之ト同一ノ理由ニ依リ若シ依頼人カ質置人ナル

場合ニ於テハ代理人ハ質取人ニ對シテ其地券ヲ差止ムルノ權利ナシ又茲ニ注意  
スヘキハ一般差留權ナルモノハ其一般ノ名義アルニモ抱ハラス嚴格ニ職業上ノ  
支拂ニ就テノミ存在スルモノナル事是ナリ即チ代理人ノ如キハ唯タ其職業ニ關  
スル證書又ハ其職業ニ對シテ支拂ハルヘキ金圓ニ就テノミ此權利ヲ實行スルコ  
トヲ得ルニ過キス又差留權ノ附隨スル債主權ト證書トヲ讓受スル者ハ是ト同時  
ニ其差留權ヲモ讓受スルコトヲ得ヘシ而シテ其讓受人ハ敢テ代理人タルヲ要セ  
サルナリビシトリヤ第三十三年及三十四年ノ條例第百二十七章第廿六節ノ規定  
スル所ニ依レハ凡ソ代理人ニシテ起訴又ハ答辨ノ依頼ヲ受ケタルトキハ其訴訟  
ヲ審理スル裁判官ハ該代理人ニ對シテ其恢復シタル財産若クハ保監セル財産ヨ  
リ手数料ヲ要求スルコトヲ得ルノ權利アリト宣告スルコトヲ得ヘシ故ニ裁判官  
ニ於テ斯ル宣告ヲ爲シタルトキハ代理人ハ其恢復シ又ハ保存シタル財産ノ如何  
ナル種類ノモノタルヲ論セス之ニ對シテ日當或ハ手数料等ノ支拂ヲ要求スルノ  
權アリトス

以上講述セルカ如ク差留權ナルモノハ其種類ノ何タルヲ論セス唯タニ物品ノ占



有テ差止ムルノ權利タルニ過キサルナリ而シテ此權利ヲ享有スル者ハ非行者ニ對シ發見品取戻ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘシト雖モ其物品ノ所有權ハ依然トシテ所有主ニ存在スルコト素ヨリ論ヲ俟タス。

差留權ヲ享有スル者カ其物件ノ占有ヲ拋棄シタルトキハ之ト同時ニ差留權ヲモ失却スルモノトス差留權ヲ有スル者カ他日ニ於テ其負債ノ償却ヲ受ケンコトヲ約定シ又ハ其負債ニ對シテ他ノ抵當物ヲ取りタル場合亦同シ。

上來三節ニ於テ講述シタル發見品取戻ノ訴訟、動產委託及物品差留ノ場合ハ畢竟物品ノ占有權ハ他人ニアルモ其所有權ハ必スヤ或一人ニ屬スルモノナルコトヲ説明シタルモノナリ。

### 第七回

### 第三章 占有人產ノ讓渡

### 占有人產ノ讓渡

古昔封建主義ニテハ土地財產權ヲ讓渡スコトヲ禁止シタレトモ當時人產ノ如キハ封建主義ヲ適用スル丈ケノ價值ヲ有セサルヲ以テ占有財產ハ古昔ヨリ今日ニ至ルマテ自由ニ移轉スルコトヲ許シタリ然レトモ人產ト雖モ現在ノ所有權若

クハ必然ノ所有權ヲ有セスシテ單ニ將來ニ於テ所有スルノ希望ヲ有スルニ止マルトキハ法律上有効ノ移轉ヲナスコトヲ得ス即土地ノ所有者ハ其土地上ノ樹木ヨリ後日生スヘキ菓實又ハ現ニ自己ノ所有スル羊ヨリ明年切り取ルヘキ羊毛ノ如キハ有効ニ讓渡スコトヲ許セトモ他日買取ルヘキ土地上ノ樹木ヨリ生スル菓實又ハ後日他人ヨリ買取ルヘキ羊ヨリ切り取ル羊毛ハ法律上有効ノ讓渡ヲナスコトヲ得ス何トナレハ前者ニ於テハ讓渡ノ目的物ハ未タ現存セサレトモ後日必ス發生シ來ルコトハ天數ノ免レサル所ナレトモ後者ニ於テハ其讓渡ノ目的物カ果シテ自分ノ所有ニ歸スルヤ否ヤ未タ判然セサレハナリ今尙ホ一例ヲ舉ケテ説明スレハ机ヲ賣却スル場合ニ於テ其賣却ノ當時讓渡人カ現有スルトキハ素ヨリ賣却ノ効アルモ若シ其机カ讓渡人カ後來買取ルヘキモノナルトキハ決シテ讓渡ノ効アルコトナシ是ヲ以テ後日賣入ルヘキ財產ナルトキハ假令ヒ讓渡證書ニ之ヲ讓渡ス旨ノ文詞ヲ記入スルモ其効アルコトナシ然レトモ將來所有ニ歸スヘキ人產ナルモ之ヲ差押ユヘキ權利ヲモ併セテ支ヘタルトキハ普通法ニ於テハ之ヲ讓渡スコトヲ許サ、レトモ衡平法ニ於テハ之ヲ許セリ。



抑モ人産讓渡ノ方法ハ實産讓渡ノ方法トハ大ニ其手續ヲ異ニセリ古昔ニ於テハ二者間ノ讓渡方法今日ヨリモ類似ノ點アリ即古昔ニ於ケル土地讓渡ノ方法ハ土地ノ引渡ヲ證スル爲メ土若クハ石塊又ハ樹枝等ヲ讓渡人ヨリ讓受人ニ手渡スルヲ以テ之ヲ爲シ而シテ當時ハ口頭ニテモ讓渡ヲ爲モ其効アリシモノナリ然レトモ詐欺條例發布以來ハ書面ヲ以テ之カ讓渡ヲ證明スルヲ必要トセリ今日ニ於テハ土地ノ財産權ハ捺印證書ヲ以テ讓渡スコト、ナレリ之ニ反シテ人産ハ捺印證書ヲ以テ讓渡シ得ルハ勿論單ニ贈與引渡ニヨリテモ讓渡スコトヲ得ヘシ且ツ又人産ハ實産讓渡ノ方法トハ全ク異ナリタル方法ヲ以テ讓渡スコトヲ得即買賣是ナリ

前述スル所ニヨリテ見レハ人産ノ讓渡方法ニ三種アルコトヲ知ルヘシ第一贈與第二捺印證書第三買賣是ナリ以下此第三種ノ方法ニ付キ逐次詳論セシ

贈與

第一節 贈與

第一ニ人産ノ所有權ハ贈與ト占有ノ引渡トニテ移轉セラル、モノトス而シテ此贈與ヲナスニハ捺印證書其他何等ノ書面ヲモ必要トセサルノミナラス彼ノ契約、

必要ナル約報ヲモ必要トセサルナリ例ヘハ余カ甲者ニ一匹ノ馬ヲ贈與シ且ツ同時ニ甲者ノ手許ニ之ヲ引渡シタルトキハ該所有權ハ全ク甲者ニ移轉シテ再ヒ之ヲ取戻スコトヲ得ス之ニ反シテ假令ヒ捺印證書ニ非サル書面ヲ以テ馬ノ贈與ヲナスモ未タ馬ヲ他ニ引渡サ、ル以上ハ普通法上贈與ハ全ク無効ニシテ且ツ衡平法ニテモ何等ノ救正ヲ與フルコトナシ然レトモ贈與者カ贈與物件ヲ實際受贈者ニ引渡サ、ルモ受贈者ノ信託ニヨリテ自ラ贈與物件ノ占有ヲ有スルコトヲ明言シタル時ハ衡平法ハ其信託ニヨリテ實行ヲ命スルモノナリ又或ル場合ニヨリテハ贈與<sup>目的物</sup>即時ニ全ク引渡コトヲ爲ス事能ハサル場合アリ而シテ此ノ如キ場合ニハ可成實際ノ引渡ニ近キ手續ヲ盡サ、ルヘカラス此ノ如キ手續ヲ盡ストキハ贈與ハ有効トナリテ又取消スヘカラサルニ至ル例ヘハ倉庫ニ收藏セル穀類ヲ贈與スルニハ強チ之ヲ手渡スルヲ要セス倉庫ノ鍵ヲ引渡セハ其レニテ既ニ引渡アリタルモノト見做ス又材木石塊ノ如キモノナレハ讓受人ノ冒字又ハ記號等ヲ材木又ハ石塊ニ判記スレハ既ニ引渡シアリタルモノト見做ス又積ミタル枯草ノ如キモ必スシモ現實ニ之ヲ引渡スコトヲ必要トセス可成丈ク實際ノ引渡ニ近キ手續



ヲナセハ可ナリ之ニ反シテ容易ニ引渡シ得ヘキ性質ノ物品ナルトキハ一部ノ引渡ハ未ダ以テ全部ノ引渡ト見做サス若シ又人産カ荷預人又ハ運送者ノ如キ單一受托者ノ保管ニアルトキハ既ニ述ヘタル如ク受托者ノ占有ハ取りモ直サス委託者ノ占有ナルカ故ニ二人共ニ發見品取戻ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘシ此ノ如キ場合ニ於ケル受托者ノ占有ヲ解釋上ノ占有ト稱セリ而シテ此ノ如キ占有ノ存在スルトキニハ各場合ノ情況ニ從ヒ可成丈ク實際ノ引渡ニ近キ手續ヲ盡クセハ第三者ニ之カ引渡ヲ爲シタルノ効アリ例ヘハ米國リバープールノ習慣ニヨレハ他人ノ倉庫内ニアル物品ノ引渡ハ單ニ物品引渡命令書ヲ渡セハ現物引渡ノ効アリトセリ然レトモ此ノ如キ習慣ノ存在セサル場合ニハ物品ヲ保管スル倉庫主及ヒ荷預人ノ承諾アルニ非サレハ法律上第三者ニ物品ノ引渡アリタルモノト見做サス若シ又物品カ海上ニアルトキハ船荷證書ニ裏書シテ之ヲ引渡ストキハ現物ノ引渡ト同一ノ効力アルモノト見做ス之ハ商船法ナル特別法ニヨリテ然ルモノナルモ普通ノ道理ヨリ考察スルモ海上ニアル物品ナレハ其船荷證書ニ裏書スルヨリ外他ニ實際ノ引渡ニ尤モ近キ方法ナキヲ以テ其船荷證書ニ裏書スルコトニ

捺印證書

ヨリ現物引渡ノ効アリトシタルハ無理ナラヌコトナリ

第二節 捺印證書

此捺印證書ヲ以テ物品ヲ讓渡ストキハ別段報酬ノ存在ヲ必要トセス其理由ハ何人ニテモ充分ノ理由ナクシテ鄭重ノ法式ヲ履ミ讓渡ス如キコトハ萬々之レナシト假定シタレハナリ故ニ捺印證書ニヨリ讓渡ス場合ハ單一贈與ノ場合ニ要スル如キ物品引渡ノ手續ヲ省キ又賣買ニ要スル如キ報償ヲ必要トセサルナリ

第三節 賣買

賣買

人產讓渡ノ方法トシテ最モ通常使用セラル、モノハ本節ニ述フル所ノ賣買ナリ凡ソ土地賣買ノ契約ヲ取結ヒタルトキハ其土地ノ所有權ハ法律上尙ホ賣主ニ存シテ買主ニ移轉セス賣主カ土地讓渡ノ捺印證書ヲ作爲シ之ヲ買主ニ引渡シタルトキ初メテ財產權移轉スルモノトス然レトモ衡平法ニヨレハ土地ノ財產權ハ賣買契約ヲ締結シタル當時ヨリ移轉シ代價ハ賣主ノ所得トナルモノトセリ之ヲ通常稱シテ衡平法上ノ所有權ト云フ此ノ如ク普通法ニ於テハ賣買契約ヲ締結シタルノミニテハ所有權移轉ノ効果ヲ生セサルヲ以テ假令ヒ締結者ノ一方カ違約ス



ルコトアルモ他ノ結約者ハ單ニ損害要償ヲ起スノ權アルニ過キスシテ所有權取戻ノ訴ヲ起スコトヲ得ス然ルニ人産ノ賣買ニ於テハ大ニ實産ノ場合ト異ナリ人産賣買ノ契約ヲ締結シタル當時ヨリ人産ノ所有權ハ買主ニ移轉スルモノナリ而シテ此結果ヲ生スルニハ法律上賣買ニ必要ナル條件ヲ具備セサルヘカラス尙ホ詳細ノコトハ賣買法ニ譲ル

今第一編ノ講筵ヲ終ルニ臨ミ一言スヘキコトハ船舶ノコトナリ之ハ一種ノ重ナル人産ニシテ之ニ適用スヘキ法律モ自ラ異ナルモノナルモ當院ニ於テハ別科トシテ講スルノ制アレハ茲ニハ別ニ講述ノ勞ヲ執ラサルナリ

### 第八回

## 第二篇 訴訟産

### 第一章 私犯ヨリ生スル訴訟産

ブラウストン氏ノ定義ニヨレハ訴訟産トハ其所有者ニ於テ之ヲ占有セサルモ訴訟ニ依テ之ヲ占有ヲ得ヘキモノヲ云フ蓋訴訟産ハ其性質ヨリ之ヲ見レハ無形人産ノ一種ナルモ救正法ノ結果ヨリシテ之ヲ訴訟産トハ稱スルナリ

訴訟産  
私犯ヨリ  
生スル  
訴訟

余ハ既ニ総論ニ於テ占有産ト稱スルモノ、外ニ訴訟産ト云フモノ古代ヨリ存在スルコトヲ説キタリ尙ホ之ヲ詳言スレハ他人ヨリ損害ヲ受ケ又ハ他人ノ爲ニ契約ヲ破ラレタルトキハ損害金ノ賠償ヲ受クル爲メ又ハ既ニ仕拂ハルヘキ金銭ノ返辨ヲ受クルカ爲メニ裁判所ニ起訴スルノ權利ハ古代ヨリ法律上識認スル所ナリ然ラハ其訴訟ハ如何ナル性質ヲ有スルモノナリヤト云フニ對物訴訟ニ非スニテ純然タル對人訴訟ナリトス對物訴訟トハ土地若クハ實産ノ取戻請求ヲナス爲ニ提出セラル、モノナレトモ茲ニ述フル所ノ對人訴訟ナルモノハ格段ナル人ニ向テ起訴シ其目的ハ格段ナル人ヨリ金銭ヲ得ルニアリ然レトモ英法ハ此點ニ付キ千八百五十四年ノ普通法訴訟條例ニヨリテ多少ノ變更ヲ受ケタリ此條例發布以前ニアリテハ單ニ普通法ニヨリテ私犯若クハ破約ヨリ受ケタル金銭上ノ損害ヲ要償スルノ權ヲ有スルニ過キカリシモ此條例發布後ニ至リテハ原告ハ物品取戻訴訟又ハ土地取戻訴訟ノ外ニ被告ヲシテ其義務ヲ履行セシムル爲メニ上等裁判所ニ向テ執行令狀ヲ請求スルヲ得ルコト、ナレリ且同條例發布後ハ破約若クハ私犯ノ場合ニ於テ原告人カ出訴權ヲ有スルトキハ破約若クハ其他ノ非行ヲ繼



續シ又ハ之レヲ行フモノニ對シテ禁止令狀ヲ請求スルコトヲ得ルニ至レリ而シテ其後千八百六十年ニ發布サレタル普通法訴訟條例ニヨレハ右ニ述ヘタル場合ニ於テ裁判官カ殊更ニ反對ノ命令ヲ爲スニ非サレハ執行令狀又ハ禁止令狀ノ入費ハ總テ被告人ニ於テ負擔スヘキモノトナレリ此等ノ諸條例ハ普通法上ノ訴訟權ニ多少ノ變更ヲ來シタルニ相違ナキモ衡平法裁判所カ古代ヨリ行ヒ來ル所ノ禁止令狀若クハ契約履行ヲ命スル權利ニ何等ノ影響ヲモ與フルコトナシ又晚近ニ發布サレタルウクトリヤ第二十一年及第二十二年第二十七章ノ條例ニヨレハ衡平法裁判所ハ禁止又ハ履行ヲ命シタル上ニ金錢上ノ損害金ヲ命スルカ或ハ單ニ損害金ヲ仕拂ハシムル權力ヲ有スルコト、セリ以上ノ如ク救正方法ニハ種々ノ變例ヲ生セシモ十中八九ハ金錢ノ辨濟ヲ以テ充分ノ救正トナルヘシ古代ノ普通法ニヨレハ訴訟權ハ國王ニ非サレハ讓渡シ若クハ其讓渡ヲ受クルノ權ナカリシモ既ニ總論ニ於テ述ヘタル如ク近世ニ至リテハ訴訟權ト雖モ自由ニ讓渡スコトヲ得ルニ至レリ茲ニ於テカ訴訟權ハ人産中ノ最モ貴重ナルモノトハナレリ尙ホ茲ニ注意スヘキハ訴訟權トハ單ニ財產ニ對スル訴訟ノミヲ意味スルモノ

ニシテ決シテ禁止令狀若クハ身体ニ對スル契約履行ノ如キモノハ訴訟權中ニ包含セラレサルナリ

非行並ニ破約ノ事ハ對人訴訟ノ因テ生スル二大原因タルハ明白ナリ若シ人アリ余ニ對シテ或ル非行ヲ働クトキハ余ハ正理上此加害者ニ對シテ損害要償ヲ請求スルノ權アルヘク又余カ他人ト契約ヲ締結シタル場合ニ於テ他人カ其約ヲ守ラサルトキハ余ハ其破約ヲ理由トシテ損害要償ヲ請求スルノ權アルヤ明白ナリ故ニ英法ニ於テハ對人訴訟ヲ二大級ニ區別セリ曰ク私犯ヨリ生スル訴訟曰ク契約ヨリ生スル訴訟是ナリ本章ニ於テハ私犯ヨリ生スル訴訟ノ事ヲ講述シ次章ニ於テハ契約ヨリ生スル訴訟ノ事ヲ講述スヘシ

英國古代ノ法律ニ於テハ健訟濫訴ノ弊ヲ恐レテ私犯ニ對スル訴訟ノ救正ハ加害者並ニ被害者ノ生存中ニ限レリ故ニ加害者カ死亡スルカ被害者カ死亡スルカ二人ノ中一人カ死亡シタルトキハ訴訟權ハ其死亡ト共ニ直ニ消滅スルコト、ナレリ當時一ノ原則アリ曰ク對人訴訟ハ人ト共ニ消滅スト而シテ此原則ハ私犯ニ對スル訴訟ニ適用サレタリ然レドモエドワード第三世第四年第七章ノ條例ヲ以テ



舊時ノ法律ヲ變更シ死者ノ生存中其人産ニ對シテ受ケタル損害カ死者管財人ノ利害ニ影響ヲ及ホストキハ管財人ハ死者ト同一ノ訴權ヲ享有スルコトニ規定セリ故ニ此條例ニヨレハ死者ノ管財人ハ死者ニ拘ハラズ直ニ加害者ニ對シテ損害ヲ要償スルコトヲ得ヘシ又ウヰリアム第四世第三年並ニ第四年第四十二章ノ條例ハ死去前六ヶ月以内ニ自分ノ實産ニ對シテ損害ヲ受ケタルトキハ死者ノ管財人ハ死者カ生存中享有スルト同一ノ權利ヲ得ルコトヲ規定セリ但シ其訴訟ハ死去後管財人ヨリ一ケ年以内ニ提起スルコトヲ要シ而シテ此訴訟ニヨリテ回復サレタル損害金ハ死者人産ノ一部ヲ組成スルモノトス又ヰクトリヤ第九年並ニ第十年第九十三章及第二十七年并ニ第二十八年第九十五章ノ改正條例ニヨレハ死者カ他人ノ非行又ハ過失ノ爲メニ死去シ若シ其死者カ生存スルトキハ損害要償ノ權利ヲ保有シ得ヘキモノナルトキハ加害者ハ被害者ノ死亡スルニ關セス又被害者ノ死亡ハ重罪トナルカ如キ犯行ニ基因セサルモ尙ホ損害賠償ノ義務ヲ負フコトナレリ又同條例ハ此訴訟ハ死者ノ死去後十二ヶ月以内ニ死者ノ管財人ノ名義ヲ以テ死者ノ夫若シハ妻或ハ父母祖父母繼父母子孫繼子ノ利益ノ爲ニ起訴セザ

ルヘカラス若シ又死者ノ管財人在ラサルカ若クハ之レアルモ死者死去後六ヶ月以内ニ起訴セサルトキハ其訴訟ノ利害ヲ受クル一人若クハ數人ニ於テ自ラ起訴スルコトヲ許セリ

以上ニ述ヘタル條例發布以前ニアリテ被害者ハ其生存中ナレハ加害者ニ對シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得レトモ若シ被害者カ其加害ノ爲ニ死去シタルトキハ死者ノ親屬ハ假令ヒ死者ノ保助ニヨリテ衣食セシモ尙ホ訴訟權ヲ有セザリシナリ例ヘハ從來夫ノ勞力ニヨリテ衣食セシ妻子カ突然夫ノ死去セシ爲ニ活路ヲ失ヒ流離困難ノ域ニ沈淪スルモ決シテ夫ニ代リ加害者ニ對シテ起訴スルコトヲ得サルナリ然レトモ條例發布以後ニアリテハ死者ノ親屬及管財人ハ死者ニ代リテ起訴權ヲ有スルコト、ナレリ去レト條例發布後ニテモ其加害ノ結果カ死者ノ死ヲ惹起セス好シヤ死ヲ惹起スルモ死者ノ財産上ニ何等ノ關係ヲモ及ホサルトキハ假令ヒ死者ノ親屬管財人ナルモ何等ノ訴權ヲ有スルコトナシ例ヘハ死者他人ト結婚ノ約ヲ結ビタルニ他人ノ其契約ニ背キタリトテ死者ノ財産ニハ何等ノ關係ヲモ及ホサルヲ以テ從ヒテ死者ノ親屬管財人キハ何等ノ訴權アルコトナシ



古昔ハ畜ニ被害者ノ死亡ノミナラス加害者ノ死亡モ尙ホ訴權消滅ノ理由トナレ  
 リ然レトモ加害者ノ管財人カ加害ノ爲メ利益ヲ爲シタルトキハ被害者ハ加害者ノ  
 管財人ニ對シテ其加害ヨリ得タル金員若クハ物品ヲ回復スルノ訴權アリシ此原  
 則ハ遠ク後世ニ至ルマテ行ハレシモウヰリ第四世第三年第四年第四十二章  
 ノ條例ニヨリテ加害者ノ管財人ハ加害者ノ死亡後ト雖モ被害者ヨリ損害要償ノ  
 訴訟ヲ受クル責任アルコト、ナレリ而シテ此訴訟ハ加害者ノ死亡前六ヶ月以内  
 ニ被害者ノ人産若クハ實産ニ關シ犯シタル非行ニ對シ提起スヘキモノニシテ之  
 チ提起スルハ加害者ノ管財人カ死者ノ財産ヲ管理スルコトヲ初メタル後六ヶ月  
 以内ニ限ルヘキモノト定メラレタリ此訴訟ヲ以テ回復シタル賠償金ハ死亡者カ  
 他人ニ負フタル單一契約ノ債權ト同一ノ配當順序ニヨリ分配スルモノトス然レ  
 トモ右條例ハ管財人カ從來ヨリ負擔スヘキ責任ニハ何等ノ影響ヲモ與フルコト  
 ナシ

茲ニ終ニ臨ンテ一言スヘキコトハ私犯ニ基由スル一種特別ノ訴訟ナリ此訴訟ハ  
 性質上死者自身ニハ何等ノ責任ヲ負擔スルコトナキモ古代ハ普通法今代ハ成文

法ニヨリテ死者管財人カ代リテ責任ヲ負擔スル一種奇怪ノモノナリ即チ寺院ニ  
 寄附サレタル家屋若クハ營造物ノ修繕ヲ怠リタルトキニ提起スルノ訴訟ナリ而  
 シテ此訴訟ハ新任職カ先住職ノ管財人ニ對シテ提起スルモノナリ然レトモ此訴  
 訟ハ彼ノ對人訴訟ハ人ノ死亡ト共ニ消滅スルト云フ原則ノ例外ニ属スルモノニ  
 非サルナリ何トナレハ此訴權ハ死者ノ死亡前ハ存在セサルモノニシテ此訴訟ノ  
 被告トナルモノハ常ニ死者ノ管財人ナレハナリ去レト若シ先住職カ辭職スルカ  
 若クハ新舊住職カ交代シタルトキハ先住職ハ自ラ新任職ニ對シテ此訴訟ヲ受  
 クルノ責任アリ舊時ノ法律ニヨレハ此訴訟ノ請求金ハ死者ノ管財人カ死者ノ諸  
 負債ヲ辨償シタル後仕拂フヘキモノナリシモウヰリ第三十四年第三十五  
 年第四十三章第三十六節ノ條例ニヨリテ此請求金ハ先住職カ新任職ニ對シテ負  
 フ所ノ負債ナルヲ以テ普通法ニテモ衡平法ニテモ通常ノ諸負債ト同一ノ方法ニ  
 ヨリテ辨償スルコト、ナレリ

第九回

第二章 契約ヨリ生スル訴訟産

人産法

契約ヨリ  
生スル  
訴訟産



對人訴訟ナルモノハ既ニ述ヘタル如ク當ニ非行ヲ受ケ其賠償ヲ請求スル爲メ提起シ得ルノミナラス契約ノ履行ヲ受ケサルヨリ損害ヲ生シタルトキ又ハ契約ノ目的カ金錢ニアルトキハ其仕拂ヲ請求スル爲メニモ提起スルコトヲ得蓋シ金錢ノ仕拂ハ對人訴訟ニ於テハ最後ノ救濟法ニシテ苟モ金錢ニ見積リ得ヘキ損害ナレハ何時ニテモ對人訴訟ヲ以テ其賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノナリ

此對人訴訟ニ二種アリ契約ニヨリ請求金額ノ一定スル場合ト一定セサル場合はナリ一定ノ金額ヲ請求セサル訴訟ハ法語ニテ之ヲ損害ノ點ニ於テ確實ナル所ノ訴訟ト云ヒ此ノ如キ訴訟ノ場合ニ於テハ原告ノ請求スル損害賠償額ハ古昔ニ於テハ陪審官カ原告ノ蒙リタル損害ノ多少ニヨリテ其損害額ヲ定メシモ千八百五十二年普通法訴訟條例發布後ハ判事カ原告ノ請求スル賠償金ハ單ニ計算ノ事柄ナリト思惟シタルトキハ裁判所ノ書記官一人ヲシテ其金額ヲ算定スルコトヲ命スルヲ得此裁判所ノ書記官ハ今日ハ上等裁判所ニ移サレタルモ尙ホ古昔ト同一ノ義務ヲ行フ之ニ反シテ結約者カ最初ヨリ損害賠償額ヲ約定シタルトキハ其約定金額ハ違約者カ辨償スヘキ金額ナリトス此ノ如ク約定セラレタル金額ハ正當

ニ罰金ト稱スヘキモノニ非ス蓋シ罰金トハ法律上實際受ケタル損害ニ對スル擔保ノ金額ト認ムヘキモノナルヲ以テ此ノ如キ結約者雙方カ定メタル約定金ハ假令罰金ノ文字ヲ以テ之ヲ形容スルモ罰金ノ性質ヲ有スル者ニ非ス故ニ證書面ニ罰金ノ文字ヲ用ユルモ其實損害賠償金タルニ過キサル時ハ其金額ヲ請求スル事ヲ得然レトモ數個ノ所爲ヲ行フヘキ契約ヲ破リタル時ハ之カ辨償金トシテ唯ニ一個ノ金額ヲ約定シタル場合ニ於テ若シ實際審理上甲ノ所爲ヲナサ、ルカ爲メ百圓ノ賠償金ヲ賠償ヒシムルハ夥多ニ過キ去レハトテ乙ノ所爲ヲ爲サ、ルトキニ生スル賠償金ニ比スレハ尠ナルコト明白ナルトキハ結約者ノ約定金額ニ準據セシテ實際ニ生シタル損害額ヲ辨償セシムルモノトス尤モ結約者カ數個ノ所爲中何レノ所爲ヲナサ、ルモ損害金トシテ百圓ヲ仕拂フヘキコトヲ明約シタルトキハ假令ヒ個々ノ所爲ニ付キ一々考フルトキハ其損害額ニ輕重アルモ或ル一個ノ所爲ヲナサ、ルトキハ其賠償金トシテ全額ヲ仕拂ハシムルコトヲ得ヘシ之レヨリ尙ホ本章ニ於テ契約ノ定義要素効果等ヲ講述スヘキ筈ナルモ此等ノコトハ契約法ニ於テ諸君ノ充分知得セラル、事柄ナレハ第二章ハ之レニテ終ラシ



## 第三章 負債

英法ニ於テハ負債ト稱スルモノニ數種アリ而シテ其種類ノ異ナルニ從ヒテ債主  
權ヲ確保スル所ノ程度モ亦異ナルモノトス然レトモ此等負債ノ種類ハ社會ノ進  
歩ト共ニ漸次消滅スルモノ、如シ諸負債中ニテ最上ノ特權ヲ有スルモノハ記録  
負債ナリトス請フ以下順次ニ之ヲ講述セシ

## (一) 記録負債

記録負債トハ記録裁判所ノ證據ニヨリテ返濟スヘキ負債ヲ云フ而シテ罰金禁錮  
ヲ言渡スコトヲ得ル權限アルモノハ皆記録裁判所ナリトス此記録負債ハ總テ債  
主ニ對シテ同一ノ權利利益ヲ與フルモノニ非ス記録負債ノ債主中他ノ債主ニ先  
テ第一ニ請求スルノ特權ヲ有スルモノアリ即帝王之ナリ古法ニヨレハ帝王カ此  
特權ヲ有スル負債ハ記録負債ナルカ捺印負債ナルコト必要ナリトス故ニ單一契  
約上ノ負債ナレハ人民ノ記録負債ニ先テ先取權ヲ有スルコトナシ然レトモ帝王  
ハ同等ノ負債ニ付テハ人民ニ先テ返濟ヲ受クルノ權利アリ或ル學說ニ依レハ帝  
王ハ人民ノ捺印證書ノ負債ニ先テ之カ返濟ヲ受クルノ權利ヲ有スルモノト論

セリ然レトモ特別契約上ノ負債ト單一契約上ノ負債ノ區別ハヴギクトリヤ第三  
十二年第三十三章第四十六章ノ條例ヲ以テ廢滅ニ歸シタルカ故ニ今日ニテハ特  
別契約上ノ負債モ單一契約上ノ負債モ同等ノ地位ニ引キ直サレタリ依テ今日ニ  
於テハ帝王カ有スル單一契約上ノ債主權モ人民カ有スル特別契約上ノ債主權ニ  
先テ返濟ヲ受クヘキ權利ヲ有スルニ至レリ然レトモ人民相互間ノ負債ナレハ特  
別契約上ノ債主ト單一契約上ノ債主トノ間ニ先取權アルコトナシ  
一私人カ他ノ一私人ニ對シテ負フ所ノ諸種ノ負債中最モ重要ナル救濟ヲ受クル  
モノハ記録裁判所ノ判決ニヨリテ返濟スヘキモノトナリタル負債ナリトス之ヲ稱  
シテ裁判上ノ負債ト云フ此裁判上ノ負債ハ記録裁判所ノ證據ニ基ツキ負フモノ  
ナレハ記録負債ノ一種ナルコト明カナリ而シテ此種ノ負債ハ記録裁判所ニ於テ  
實際ノ判決ヲ與ヘサルモ尙ホ生スルコトアリ今其場合ヲ擧クレハ被告人カ殊更  
ニ答辨書ヲ差出サ、ルカ若クハ被告人カ代言人ヲ撰定スルコトヲ怠ルカ又ハ被  
告人カ原告人ノ請求ヲ承認スルトキハ裁判所ハ直ニ被告ニ對シテ勝訴ノ裁判ヲ  
與ヘ之ヲ其裁判所ノ記録ニ登錄ス此時ヨリ裁判上ノ負債生スルモノトス蓋シ裁



判ナルモノハ原被兩造爭論ノ末言渡スヘキモノナルコ前述べシ場合ハ原被兩造  
 間ニ爭論ナク好シヤ之レアリトスルモ其爭論ノ點明白ナラサレハ決シテ正當ニ  
 裁判トハ云フヘカラサルナリ然レトモ古代ハ此種ノ裁判法甚タ多クシテ裁判上  
 ノ負債ハ此等ノ裁判法ニヨリテ判決セラル、コト通常ナリシ蓋シ此ノ如キ裁判  
 法アルハ訴訟法其他ノ法律ノ未タ發達セサル一證ナリ近世ニ至リテハ爭論ナキ  
 事件コ付テハ即時ニ且ツ無條件ニ又未來ニ於テ金員ヲ仕拂ハサルノ條件ヲ以テ  
 原被兩造カ承諾上被告ヲ敗訴セシムルノ裁判ヲ受ケ被告ニ對シテ執行命令狀ヲ  
 受クルコトニ付キ判事ノ命令ヲ得ルコト、ナリテ幾分カ訴訟手續法簡單トナレ  
 リ

裁判上ノ負債ハ裁判登錄ノトキヨリ裁判執行ニ至ルマテ一ケ年百分ノ四即チ百磅  
 ニ付キ四磅ノ利息ヲ生ス而シテ此利息ハ執行命令書ニヨリテ執行サル、モノト  
 ス古代ニ於テハ負債主カ死亡シタルトキハ裁判上ノ負債ハ負債主ノ遺囑若クハ  
 無遺囑管財人カ特別契約上ノ負債並ニ單一契約上ノ負債ニ先テ負債主ノ人産ヲ  
 以テ仕拂フノ義務アリ然レトモ今日ニ於テ此ノ如キ先取特權ヲ成立セシムルニ

ハ土地ノ買主又ハ質取主カ其土地ニ關スル權利ヲ確固タラシムル手續ト同一ノ  
 方法ヲ採ルチ必要トス即負債主ノ死亡前五ケ年内ニ之ヲ登記スルカ若クハ再登  
 記スルコトヲ必要トセリ又舊時ニ於テ裁判上ノ負債ハ普通法廷ト衡平法廷ト又  
 上等裁判所ト下等裁判所トカ與ヘタル裁判ヨリ生スルモノタルヲ論セス總テノ  
 單一契約上ノ負債ニ先テ返濟ヲ受クルノ權アリ然レトモ外國裁判所ノ與ヘタル  
 裁判ヨリ生スル負債ハ單一契約ニ先テ返濟ヲ受クルコトヲ得ス去ナカラ一千八  
 百五十五年ノ裁判所構成條例ニヨレハ裁判所カ此條例發布以後死亡者ノ遺産ヲ  
 分配スルニ當リ其遺産カ死者ノ總テノ負債義務ヲ完済スルニ充分ナラサルトキ  
 ハ裁判上ノ債主モ單一契約上ノ債主モ其他ノ債主ニ付テモ同一ノ規則ヲ適用ス  
 ルコト、ナレリ換言スレハ裁判上ノ債主ハ他ノ債主ニ先テ返濟ヲ受クルノ權ナ  
 シ又身代限ノ場合ニ於テモ裁判上ノ債主ハ何等ノ特權ヲ有スルコトナク總テ負  
 債ハ同一ノ割合ヲ以テ返濟スルコト、ナレリ

## 第十回

英國ニ於テ從前ハ裁判上ノ債主ハ捕縛執行ノ令狀ニヨリテ負債主ノ身体ヲ禁錮



スルコトヲ得タリ然レトモ債主カ此權ヲ實行シテ負債主ヲ禁錮ニ處シタルトキハ債主ハ最早其債主權ノ満足ヲ得ルノ權ヲ失フモノトス即債主ハ負債主ヨリ滯金ノ辨償其他ノ擔保ヲ受クルノ權ヲ失ス然レトモ負債金額カ二十磅ヲ超過セサルトキハ負債主ハ先ツ以テ身代限役員又ハ地方裁判官ノ召喚並ニ取調ヲ受ケタル後ニ非サレハ禁錮ニ處セラル、コトナシ而シテ此場合ニ於テ地方裁判所判事及身代限役員ハ負債主カ詐欺其他ノ不正ノ所爲ヲ以テ負債ノ辨償ヲ免レント謀ル場合ニ非サレハ決シテ負債主ニ對シテ捕縛執行ノ令狀ヲ發スルノ權ナシ然レトモ若シ地方裁判官若クハ身代限役員カ此令狀ヲ發スルノ必要アリト信シテ之ヲ發シ債主ハ此令狀ニヨリテ負債主ヲ禁錮ニ處スルコトアルモ債主ハ之カ爲ニ負債辨償ヲ受クル權ヲ失フコトナカルヘシ

以上ニ掲ケタルモノハ英國ニ於ケル從前ノ規則ナルモ今日ニ至リテハ條例ヲ以テ詐欺ヲ行フ負債主ヲ禁錮ニ處スルコトハ廢止セタリ而シテ此條例ハビクトリヤ第三十二年三十三章第六十二章ヲ以テ發布サレタルモノニシテ世間ニ千八百六十九年ノ負債主條例ト稱セラル、モノ是ナリ此條例ニ依レハ下ニ列舉スル六

個ノ場合ニ除ク外何人ニテモ金錢仕拂ヲ怠リタルカ爲メ捕縛若クハ禁錮ニシレサルコト、ハナレリ而シテ其六個ノ場合トハ左ノ如シ

- 第一 罰金又ハ罰金ノ性質ヲ帶ヒタル金員ノ仕拂ヲ怠リタルトキ但シ契約ニ關スル罰金ハ此例外ニ屬ス
- 第二 即時ニ治安裁判官ノ目前ニ於テ請求スルコトヲ得ル金員ノ仕拂ヲ怠リタルトキ
- 第三 受信託者カ衡平法裁判所ヨリ其占有シ若クハ管理スル金員ノ仕拂ヲ命ジタルトキ之カ仕拂ヲ怠リタルトキ
- 第四 代言人ニ於テ過失アリタルカ爲メ或ル費用ヲ仕拂フヘキコトヲ命ゼラレ又ハ裁判所ノ役員タルノ資格ヲ以テ或ル費用ヲ仕拂フヘキノ命令ヲ受ケタル場合ニ於テ之カ仕拂ヲ怠リタルトキ
- 第五 身代限事件ノ管轄ヲ有シ又ハ命令ヲ下ス權限ヲ有スル裁判所ヨリ負債主ニ向テ債主ノ爲メ或ル給料若クハ所得ノ一部ヲ仕拂フコトヲ命シタルニ負債主ニ於テ之カ仕拂ヲ怠リタルトキ



第六 此條例ニヨリテ命令ヲ下ス權限ヲ有スルモノカ命令シタルニモ拘ハラス之ニ背キテ仕拂ヲ怠リタルトキ

右ニ掲ケタル六箇ノ場合ハ條例ノ例外ナルヲ以テ負債主ニ於テ六箇中ノ一ニ該當スルトキハ捕縛並ニ禁錮セラルヘシ但此例外ノ場合ニ於テモ負債主ハ一ケ年ヲ超過スル所ノ禁錮ニ處セラル、コトナキモノトス

右ノ外尙ホ負債主ハ捕縛若クハ禁錮ニ處セラル、場合アリ即負債主カ義務ヲ免ル、爲メニ英國ヲ逃走セントスルトキハ債主ハ相當ノ令狀ニ依リ假リニ負債主ヲ捕縛スルコトヲ得

前ニ述ヘタル裁判上ノ負債ノ外ニ尙ホ一種ノ記録負債アリ之ヲ確認負債ト云フ英語ノ所謂「レコグニザンス」是ナリ此確認負債ナルモノハ記録裁判所又ハ職權ヲ有スル官吏ノ面前ニ於テ或ル格段ナル所爲ヲ行フ條件ヲ以テ裁判所ニ出頭スヘキコトヲ確認スルヨリ生スル所ノ負債ナリトス例ヘハ平和ヲ保持シ又ハ負債ヲ仕拂フ爲ニ裁判所ニ出頭スルコトヲ確認スルヨリ生スル義務ノ如キヲ云フ而シテ此確認負債ハ負債主カ死亡シタルトキハ裁判上ノ負債ノ次ニ位スルモノナリ

即負債主ノ人産ヲ以テ先ツ裁判上ノ負債ヲ仕拂ヒ尙ホ餘剩アルトキハ確認負債ノ辨償ニ充ルモノトス然レトモ千七百七十五年ノ裁判所構成法ヲ以テ裁判上ノ負債モ確認負債モ共ニ普通負債ト同等ノ地位ニアルモノト定メラレタリ

右ノ記録負債ニ次テ重要ナルモノハ特約負債ト稱スルモノナリ此特約負債ナルモノハ捺印證書若クハ其他ノ有式證書ヲ以テ確保スル所ノ負債ヲ云フ而シテ此類ノ負債ニ二種アリ其一ハ負債主ノ相續人ニ於テ負擔スルノ義務アル負債ニシテ他ノ一ハ負債主ノ相續人ニ於テ負擔スルノ義務ナキモノナリ此ノ如ク二者間ニ區別ヲ生スル理由ハ一ハ證書ニ相續人ニモ義務アリト特約シ一ハ證書ニ相續人ニ義務アリト特約セサルニ之レ依ルモノナリ斯ク二者間ニ書式上ノ區別アルモ負債主カ死亡シタルトキニ負債主ノ人産中ヨリ辨償ヲ受クルニ至リテハ二者間ニ區別アルコトナシ尤モ此特約負債ハ從前ハ記録負債ノ次ニ位シ單約負債ニ先テ辨償セラル、モノナリシ然レトモ借地料ノ延滞ヨリ生スル負債ハ英國封建主義ニヨリテ捺印證書ヲ以テ確保シタルモノト同等ノ地位ニ置カレタリ故ニ地代延滞ヨリ生スル負債ハ特約負債ト同等ニ辨償ヲ受クヘキモノトナレリ



右ニ述ヘタル相續人ノ負擔スヘキ負債ト負擔セサル負債トノ間ニハ多少ノ差異アリ相續人ノ負擔スヘキ負債ハ死者ニ属スル實産ヨリ辨償ヲ受クルコトニ付テハ相續人ノ負擔セサル負債ヨリモ先ニ辨償ヲ受クルノ權アリ然レトモ死亡者カ遺囑證書ヲ以テ其負債ト共ニ實産ヲ他ニ讓與シタルトキハ此二種ノ負債間ニハ少シモ相異ノ點ナクシテ同様ニ實産ヨリ辨償ヲ受クルノ權アリ一千八百六十九年ニ至リテ死亡者ノ特約並ニ單約負債間ニ存スル仕拂ノ前後ニ關スル規則ハ總テ廢止サレタリ而シテ之ヲ廢シタル條例ハ一千八百七十年一月一日ヨリ實施セサレタリ故ニ其後ハ特約負債并ニ單約負債間ニハ毫モ先取權ニ付キ先後ナクシテ平等ニ死者ノ財産ヲ以テ辨償スルコト、ナレリ尙ホ茲ニ注意スヘキハ先取權若クハ抵當權アル負債ナレハ他ノ負債ニ先テ先取權若クハ抵當權アルヤ明白ニシテ條例ハ之レヲモ變更シタルモノニ非サルナリ

英國ノ押印證書ニ二種アリ其一ヲ「デイド」チフ、コベナントト云ヒ其一ヲ「ボンド」ト云フ此「ボンド」ニハ通常條件ヲ付スルモノナリ即證書面ニ或ル期日ヲ定メテ其期日マテニ金若干ヲ仕拂フニ非サレハ其罰トシテ若干ノ金圓ヲ仕拂フコトヲ約ス

ルモノヲ云フ而シテ古代ハ嚴確ニ證書ノ文字ヲ解釋シテ若シ義務者カ約定ノ條件ニ反シタルトキハ罰金ノ金額ヲ仕拂フコト、ナリシモ近世ニ至リ衡平法ハ之ニ干涉シテ其罰金ノ額カ債主ノ受クル損害額ヨリ超過スルトキハ單ニ其損害額ヲ辨償スルニ止メ決シテ金額ノ罰金ヲ言渡スコトナシ普通法モ終ニ衡平法ノ例ヲ學フニ至レリ女王アンノ時代ニ於テ一ノ條例ヲ發シ或ル期日ニ少額ノ金員ヲ仕拂フトキハ其條件ハ全ク無効ニ歸スヘキコトヲ記載スル「ホンド」ニ付テハ假令ヒ其期日ニ金員ヲ仕拂ハサルモ其元金ト期日後ノ利子及入費ヲ仕拂フトキハ充分ノ辨償ト認ムル旨ヲ規定シ且ツ延滞利子ト元金ト合算スルトキハ罰金ノ額ヨリ過大トナルモ債主ハ罰金額ヨリ大ナルモノヲ請求スルコトヲ得スト規定サレタリ

英國ノ負債中尤モ多ク行ハル、モノニシテ法律ノ眼光ヨリ見レハ餘リ重要ヲ感セサルモノハ單約負債ナリトス此單約負債トハ記録裁判所ノ證據其他捺印證書若クハ有式證書ニヨリテ保確セラレサル所ノ負債ヲ云フ古代ニ於テハ此單約負債ハ記録負債若クハ特約負債ヲ辨償シタル後死者ノ人産ヲ以テ辨償スヘキモノ



ナルモ今日ハ既ニ述ヘタル如ク特約負債ト單約負債間ニ存スル差異ハ消滅シタ  
 リ  
 前段陳述セシ如キヲ以テ英國ノ負債ニハ五種アルコトヲ知ルヘシ第一國王ニ對  
 スル負債第二裁判上ノ負債第三相續人ノ負擔スヘキ特約第四相續人ノ負擔セサ  
 ル特約負債第五單約負債是ナリ而シテ晚近ニ至ルマテ各種ノ負債ハ各特殊ノ法  
 律ヲ有シ從テ辨償ヲ受クルニモ先後アリシ然レトモ法理上ヨリ論スルトキハ何  
 ノ負債ニテモ有價ノ報酬ニ因テ成立シタルモノハ之ヲ辨償スルニ先後ノ區別ア  
 ルヘカラス去レト英國ニテハ右ノ性法ニ正反對ノ方法ヲ取リテ負債ノ種類ニヨ  
 リテ救正法ヲ異ニセリ而シテ此理由ハ偏ニ英國ノ歴史ニ據テ求メサルヘカラス  
 又國王ノ債主權ヲ有スル負債ト一私人ノ債主權ヲ有スル負債トノ間ニ又爭論ナ  
 キ負債ト爭論アリテ裁判ヲ受ケタル負債トノ間ニ法理上辨濟ノ方法ニ就テ何等  
 ノ差異アルヘキモノニアラス然ルニ英法ハ實ニ此等ノ間ニ辨濟ノ先後ニ付區別  
 ナ立テタリ而シテ此等ノ理由モ亦英國ノ歴史ニ基因スルモノナレハ之ニ據テ之  
 カ説明ヲ求ムルノ外ナキモノトス

整理并示  
 法談ノ辨濟

第十一回

第四章 整理并示談ノ辨濟法

英國ニ於テハ負債主カ貧困ニ陥リ自ラ負債ヲ充分ニ辨濟スヘカラサル位地ニ至  
 リタルトキハ諸債主ニ向テ負債ノ幾分ヲ仕拂ヒ且或ル時間ノ猶豫ヲ受クヘキコ  
 トノ示談ヲ試ミルハ通常ノコトトス此場合ニ於テ從前ハ債主ハ負債主ニ向テ返  
 金猶豫狀ナルモノヲ渡シテ相當ノ猶豫ヲ與ヘリ而シテ其猶豫ノ時間ハ決シテ負  
 債主ニ向テ訴訟ヲ提起セサルコトヲ約束スルモノナリ此返金猶豫狀ハ監督狀ト  
 云フモノ、中ヘ記入セラル、コト多シ此監督狀ナルモノハ諸債主ノ利益ヲ保護  
 スル爲メ負債主ノ營ム業務ノ成行ヲ監督スル爲メニ監督人ヲ命スル所ノ書面ヲ  
 云フ然レトモ近世英國ニ於テハ此整理并示談ノ辨濟法ニ關スル規則ハ古來數多  
 ノ條例ヲ經今日コテハ一千八百五十九年ノ破産條例第百廿五條并第百廿六條ノ  
 規定スル所ニ依ル而シテ整理ノコトヲ規定スルモノハ第百廿五條ナルヲ以テ左  
 ニ其條意ヲ掲ケンニ

第一 負債主ニシテ自ラ其負債ヲ辨濟スルコト能ハサルトキハ債主總會ヲ開ク



コトヲ得而シテ此債主總會ニ於テハ條例ノ規定ニ從ヒ身代限ニ非サル整理ノ方法ヲ以テ負債主ノ業務ヲ整頓センコトヲ決議シ且ツ同一ノ會若クハ一週間ヲ過キヌシテ開クヘキ次會ニ於テ受信託人ヲ命スルコトヲ得此受信託人ノ外ニ尙ホ監督委員ヲモ命スルコトヲ得ヘシ

第二 負債主ハ病氣其他相當ノ原由アリテ出席スルコト能ハサルニ非サレハ業務整理ノ會議ニ出席シ債主ノ質問ニ應ジテ答辨スルノ義務アリ若シ自身ニ出席スル能ハス若クハ代人ヲ差出スヘカラサル理由アルトキハ自分ノ資産負債并債主ノ住所氏名ヲ記載シタル書面ヲ其會議ニ提出セサルヘカラス

第三 債主會議カ負債主ノ資産負債ヲ精算シ并ニ受信託者若クハ監督委員ヲ命シタルトキハ其精算及氏名ヲ記載シタル書類ヲ登記官ニ提出スルノ必要アリ而シテ登記官ハ其決議ハ條例ノ定メタル方法ニ適合シタルヤ否ヤヲ取調ヘ果シテ條例ニ從ヒ成立スルモノト認メタルトキハ負債主ノ資産并ニ負債金額ヲ登記ス而シテ整理ノ辨濟法ハ受信託者ヲ命スルトキヨリ開始スルモノト見做ス

第四 整理ノ場合ニ於テ受信託者ヲ命シタルコトニ關スル登記官ノ證明書ハ尙ホ身代限ノ場合ニ裁判官ノ與ヘタル證明書ト同一ノ効力ヲ有ス

第五 整理ノ場合ニ於ケル受信託者ハ身代限ノ場合ニ於ケル受信託者ト同一ノ權義ヲ有ス而シテ負債主ノ資産ハ身代限ノ場合ト同一ノ方法ニヨリ分配スヘキモノトス

第六 第一總會議其他ノ總會議ニ參加シタル所ノ債主ハ受信託者カ受取ルヘキ金員并其手許ニアル金員ヲ附托スヘキ銀行ヲ指定スルコトヲ得

第七 受信託者ハ負債主ノ免債ヲ登記官ニ報告スルノ義務アリ受信託者カ免債ヲ報告シタルトキハ登記官ハ負債主ニ免債ノ保證書ヲ下附スルモノトス而シテ免債ノ保證書ハ身代限者ニ渡スヘキ保證書ト同一ノ結果ヲ生ス

第八 裁判所カ充分ノ證據ニヨリテ整理辨濟ノ方法ハ法律上ヨリ生スル困難アルカ爲メカ又ハ一時受信託者ノ不在ナルカ爲メカ若クハ其他相當ノ原由ニヨリテ債主又ハ負債主ニ對シテ不相當ナル延滞又ハ損害ナシニハ到底終結スルコト能ハスト認メタルトキハ負債主ヲ身代限ニ付シテ其處分ヲナスコトヲ得



第九 監督委員ノ任命アルトキハ之ト共議セサルヲ得サル場合ニ於テモ監督委員ノ任命ナキトキハ受信託者ハ獨斷ヲ以テ事務ヲ取扱フコトヲ得

第十 此條例ニ於テ債主ノ多數ヲ計算スルニハ十磅ヲ超過セサル債主ナレハ其金額ニヨリテ其多數ヲ定メ十磅ヲ超過シタル債主ナレハ其人頭ニヨリテ多數ヲ定ム

千八百六十九年ノ倒産法ハ其第百廿六條ニ於テ示談ニ關スル規則ヲ制定セリ即左ノ如シ

第一 仕拂能力ヲ失スル負債主ノ債主ハ身代限ノ手續ニヨラスシテ非常決議ニヨリ負債ノ一部分ノ辨償ヲ受ケ他ハ釋放スルコトヲ得而シテ此債主ノ非常決議ハ總會議ニ於テ集合シタル債主ノ人數ニ於テハ多數ニシテ金額ニ於テハ四分之三以上ノ決議ヲラサルヘカラス此場合ニ於テ多數ヲ計算スルニハ十磅ヲ超過セサル債主ハ其債權ノ金額ニヨリテ計算シ決シテ人頭ヲ以テ計算スルコトヲ得ス

第二 負債主カ病氣其他相當ノ理由アリテ債主總會ニ出席スヘカラサルカ又ハ

其他ノ故障アルニアラサレハ必ス右ノ總會ニ出席シ債主ノ質問ニ對シテ答辯スルノ義務アリ若シ負債主自身出席スルコト能ハサルカ若クハ代人ヲ差出スヘカラサル原由アルトキハ自己ノ資産負債並ニ債主ノ住所氏名ヲ記載シタル書面ヲ其會議ニ提出セサルヘカラス

第三 非常決議書並ニ負債主ノ資産及負債明細書ハ其ニ之ヲ登記官ニ提出セサルヘカラス而シテ登記官ハ其決議カ條例ノ規定シタル方法ニ適合セルヤ否ヤヲ調査シ果シテ條例ノ規定ニ適合セルモノト認メタルトキハ直チニ非常決議負債主ノ資産並ニ負債金額ヲ登記セサルヘカラス此登記ヲ經ルニアラサレハ右決議ハ何等ノ効力ヲモ有セサルヘシ又債主ハ一定ノ手数料ヲ支拂ヒ一定ノ期限ニ於テ右明細書ヲ檢閱スルコトヲ得

第四 債主ニ於テ既ニ承諾シタル示談ノ條項ハ非常決議ニ依リ更ニ之ヲ増減變更スルコトヲ得但シ其増減變更ニ反對スル債主ヲ害スヘカラス而シテ其決議ハ第一回ノ非常決議ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ登記官ニ提出スヘシ

第五 非常決議ニ於テ承諾シタル示談ノ條項ハ負債主ノ資産及負債明細書ニ記



載セラレタル總テノ債主ヲ拘束スルモノトス但シ其他ノ債主ニ對シテハ何等ノ効果ヲモ及ホサルヘシ

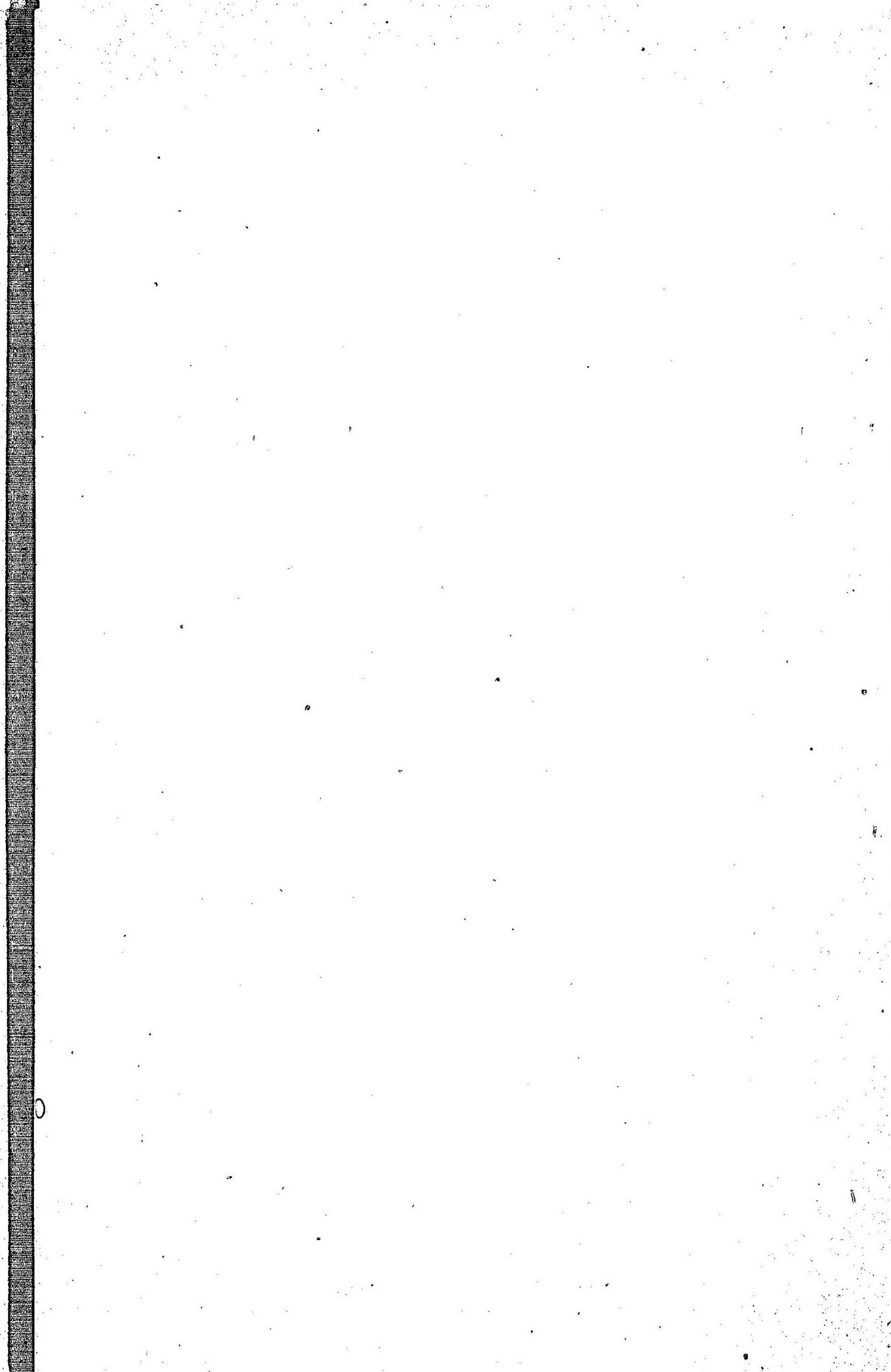
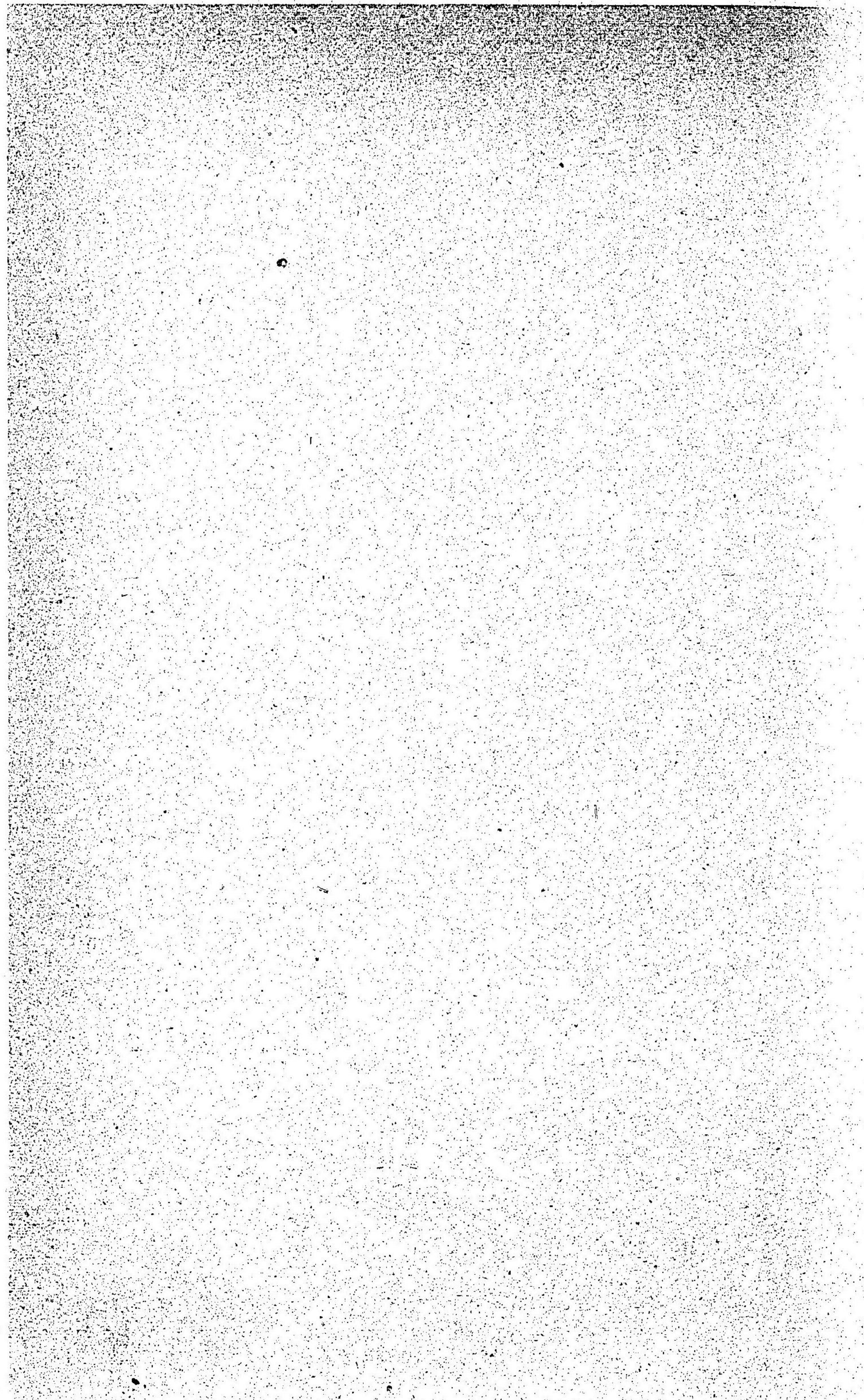
第六 爲替手形又ハ約束手形ニ關スル負債ニ付テハ若シ負債主ニ於テ其手形所持人ノ誰タルカヲ知了セサルトキハ其手形ノ金額、支拂期限、手形對手ノ姓名其他手形ニ付テ自己ノ知了セル各條項ヲ詳述セサルヘカラズ而シテ此等ノ場合ニ於テ負債主ノ故意ニ出テサル錯誤アルトキハ之カ通知ヲナシ債主總會ノ承諾ヲ經テ之ヲ訂正スルコトヲ得ヘシ

第七 本條ノ規定ニ從テ成立シタル示談ノ條項ニ基キ其關係人ニ於テ略式ノ請求ヲナストキハ裁判所ハ負債主ニ對シテ之ヲ強行セシムルコトヲ得若シ其命令ニ從ハサルトキハ法院侮辱ヲ以テ論セラルヘシ

第八 裁判所ニ於テ充分ノ證據ニヨリ示談ノ方法ハ法律上ヨリ生スル困難アルカ爲メ又ハ其他相當ノ理由ニヨリテ債主又ハ負債主ニ對シテ不相當ナル延滯又ハ損害ナシニハ到底之ヲ終結スルコト能ハスト認メタルトキハ負債主ニ對シテ身代限ヲ言渡シ其處分ヲナスコトヲ得

人産法ニ關シテハ尙ホ講述スヘキモノ居多ナリト雖モ學年既ニ終結ヲ告ケタルヲ以テ茲ニ之ヲ省畧シ更ニ後日ヲ俟テ補遺セントス

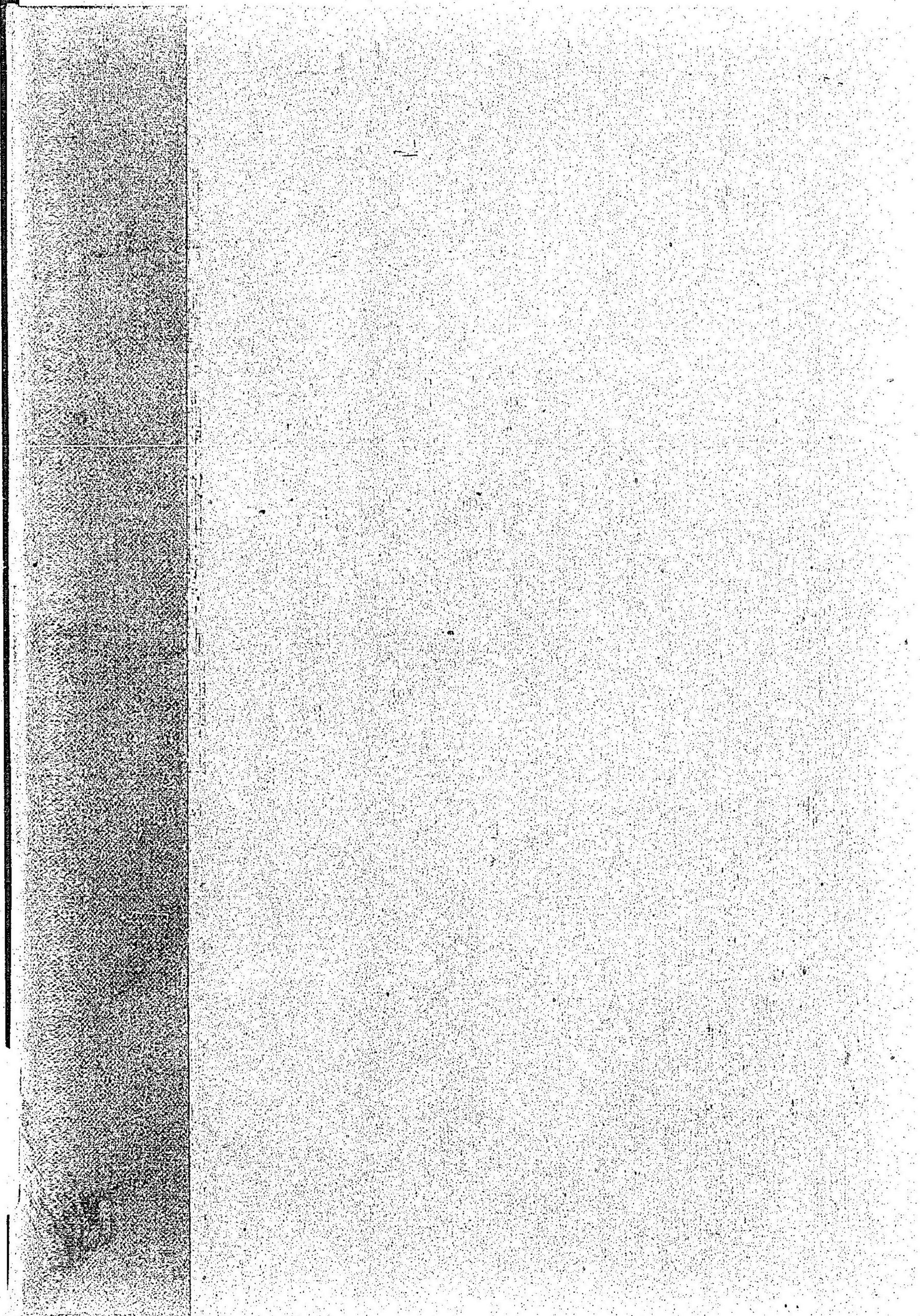






14 754  
427 81<sub>1</sub>







14

427

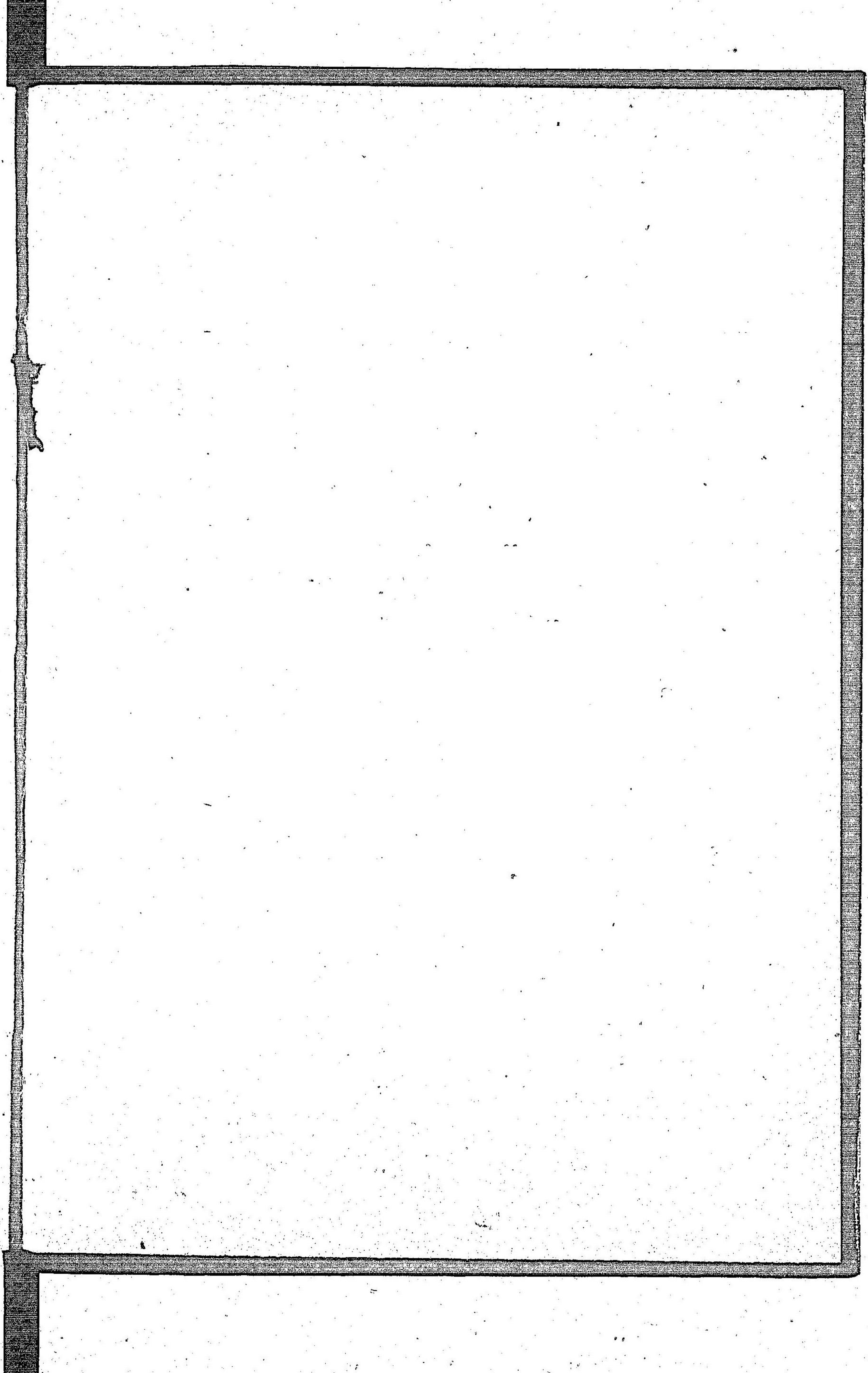
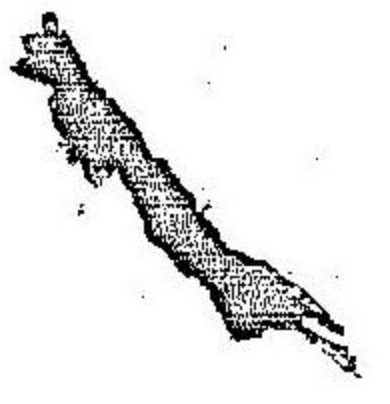
3 1 0 3 0 1 - 0 0 0 - 0

1 4 - 4 2 7

人産法

馬場 愿治 講義





33.12.20



